



*Strategic
Business
Innovator*

**2009年3月期
第2四半期
SBIグループ決算説明会**

2008年10月31日

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

1. 連結決算業績

2009年3月期 第2四半期 連結決算業績

(単位:百万円)

	2008年3月期 2Q累計連結決算	2009年3月期 2Q累計連結決算	前年同期比 増減率(%)
売上高	118,031	71,747	▲39.2
営業利益	23,409	6,330	▲73.0
経常利益	20,937	4,773	▲77.2
税引前利益	25,075	1,275	▲94.9
当期純利益	8,938	▲1,523	—

四半期連結業績推移

(単位:百万円)

	2008年3月期			2009年3月期	
	第2四半期 (2007年7~9月)	第3四半期 (2007年10~12月)	第4四半期 (2008年1~3月)	第1四半期 (2008年4~6月)	第2四半期 (2008年7~9月)
売上高	61,945	52,082	52,454	34,603	37,143
営業利益	10,688	9,482	9,714	3,908	2,421
経常利益	8,747	7,062	7,687	3,296	1,476
税引前利益	8,832	5,538	※1 ▲1,794	※2 ▲7,327	※3 8,602
当期純利益	3,034	1,584	▲6,294	▲5,908	4,385

※1 2008年3月末の時価に基づく関係会社(ゼファー社等)株式の減損処理に伴うのれんの一括償却等93億円を特別損失に計上

※2 民事再生手続開始の申立てを行ったゼファー社株式に対して関係会社株式評価損94億円を特別損失に計上

※3 E*TRADE Korea株式の譲渡に伴い、104億円の特別利益を計上

連結決算業績のハイライト

① 未曾有の市場環境の中、主要事業部門で営業黒字を確保

- ・IPO件数：前2Q累計50社→当2Q累計11社
- ・個人売買代金：当2Q累計は前2Q累計から約31%減少
- ・不動産市況の大幅悪化

上記の状況下で、アセットマネジメント事業、証券関連事業、ファイナンシャル・サービス事業、住宅不動産事業はいずれも営業黒字を確保

② 韓国ウォン相場変動等により、特別利益で特別損失を補えず

ゼファー株式やSBI証券の保有ファンドの売却により投資有価証券売却損120億円を特別損失に計上。E*TRADE Korea株式の売却による投資有価証券売却益は、韓国ウォン相場下落により104億円にとどまる

③ 株式市場に左右されにくい新規事業の早期育成と、 株式市場反転後を見据えた布石を継続

- ・順調なネット銀行は来年度黒字化が視野に
- ・早期の利益貢献が見込めるSBIリクイディティ・マーケットの立ち上げ
- ・運用開始済みの既存海外ファンドは投資を待機する一方、新規ファンド設立は継続

E*TRADE Korea株式の譲渡完了

【株式譲渡の概要】

- ①日程：
 - 2008年4月10日：基本合意書の締結
 - 2008年9月26日：韓国金融委員会の承認
 - 2008年9月29日：株式譲渡完了

- ②譲渡先：
 - G&A KBIC PRIVATE EQUITY FUND

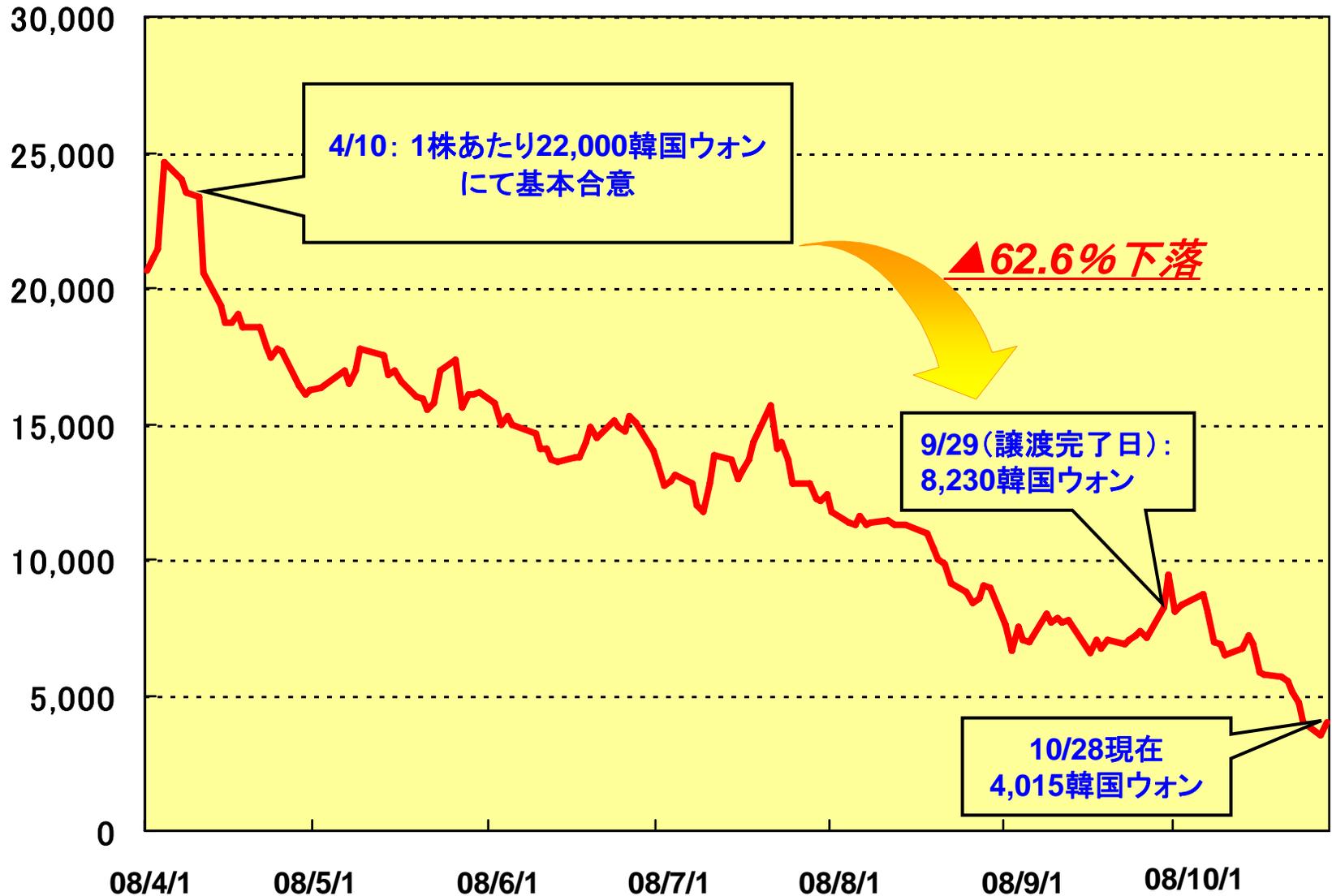
- ③譲渡株式数：
 - 9,744,000株（発行済株式総数の71.4%）

- ④譲渡金額：
 - 214,368百万韓国ウォン
 - （1株あたり22,000韓国ウォン）

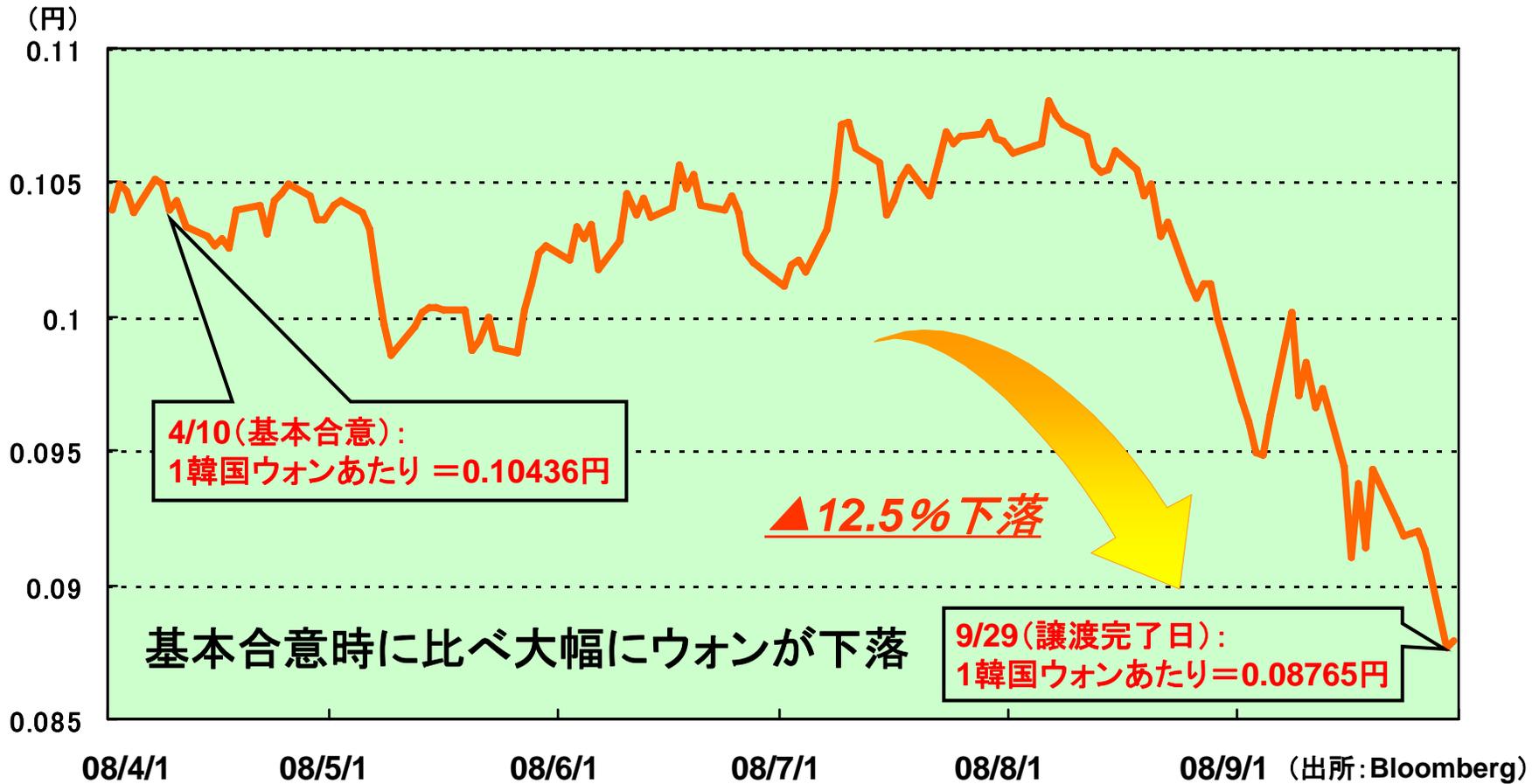
※2008年9月29日の株価は8,230韓国ウォン

E*TRADE Korea株式の価格推移

(韓国ウォン)



韓国ウォン・日本円との為替レート推移



	基本合意時(試算)※	2Q決算(確定)
特別利益計上額	139億円	104億円
当期純利益への影響額	82億円	62億円

※ 基本合意時点でSBI証券がSBIホールディングスの完全子会社であったと仮定して算出

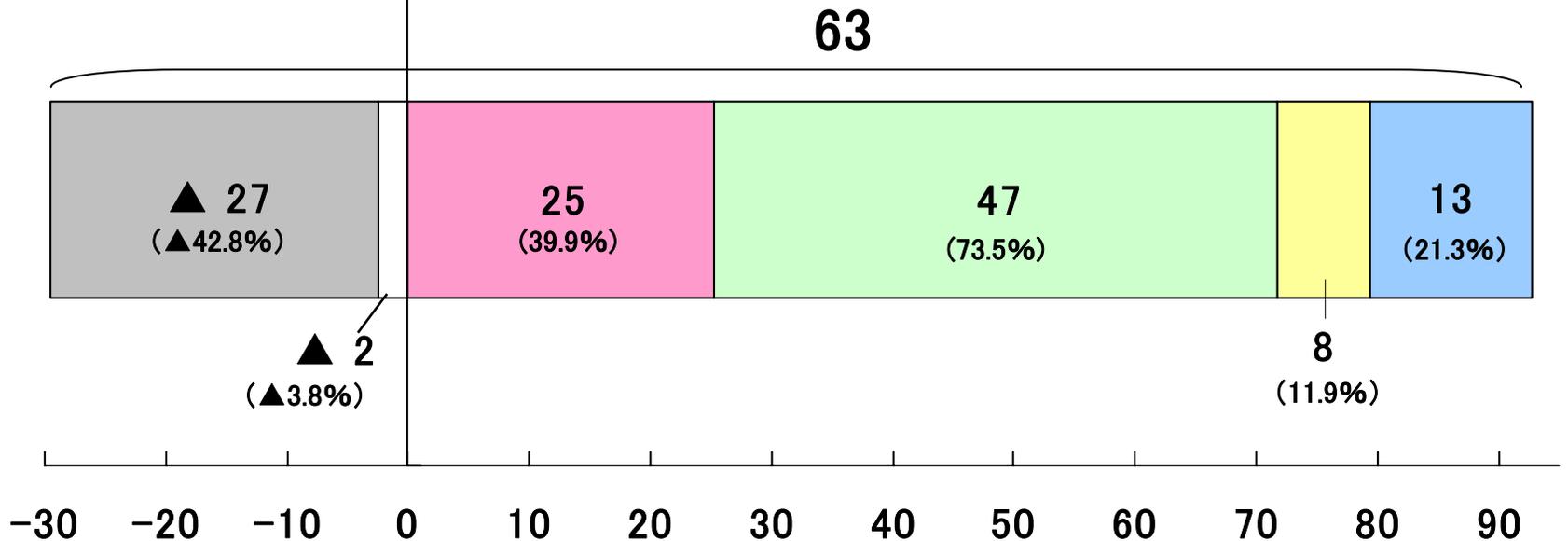
営業利益の構成比較

2009年3月期
2Q累計 営業利益

- アセットマネジメント
- ブローカレッジ&インベストメントバンキング
- ファイナンシャル・サービス
- 住宅不動産関連
- システムソリューション
- 連結消去及び全社費用

(単位:億円)

主要収益部門はすべて営業黒字



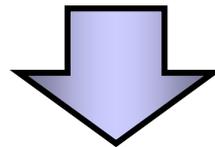
※ 億円未満を四捨五入した数字です。

社債の償還について(SBIホールディングス)

今期中に償還を迎えるSBIホールディングスの社債

	金額(億円)	償還時期
無担保普通社債(償還済)	500.0	2008年9月
2008年満期円建転換社債型 新株予約権付社債	59.4 (注1)	2008年11月
合計	559.4	

(注1)2008年9月末時点の未転換残高

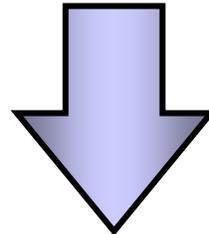


みずほコーポレート銀行、三井住友銀行、住友信託銀行、三菱東京UFJ銀行からの融資と、自己資金により調達。

社債の償還について(SBI証券)

今期中に償還を迎えるSBI証券の社債

	金額(億円)	償還時期
無担保普通社債	500.0	2009年3月

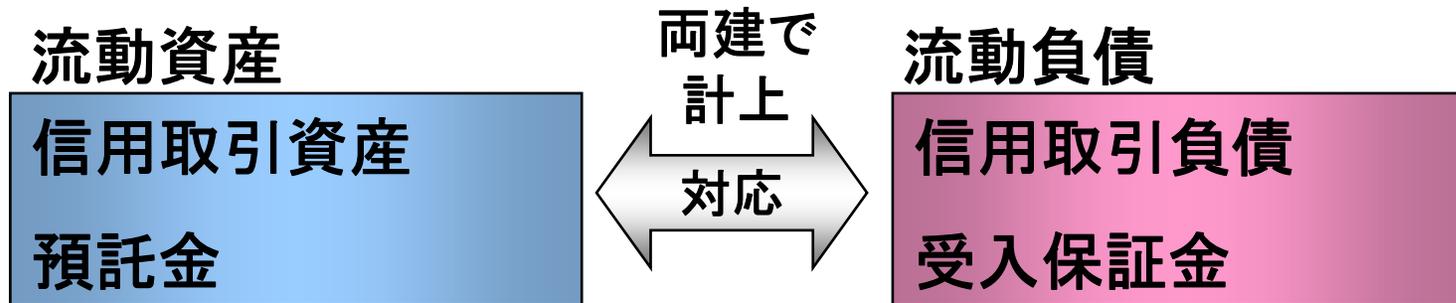


SBI証券の現預金にて償還予定。

**(2008年9月末で現預金残高は976億円を有しており、
償還のための起債や銀行借入の予定はない)**

連結貸借対照表の特徴(1)

当社の連結総資産は、子会社のSBI証券における預託金等の顧客資産勘定が含まれるため、実態より膨らんでいる



合計5,669億円 ←→ 合計3,870億円

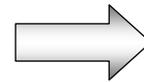
差分は主に、SBI証券の自己資金を用いた信用取引貸付であり、本来は証券金融会社等からの信用取引借入にて賄うことが可能

顧客への信用取引貸付を、全て証券金融会社からの信用取引借入にて賄う場合、流動資産(キャッシュ)が更に増加する

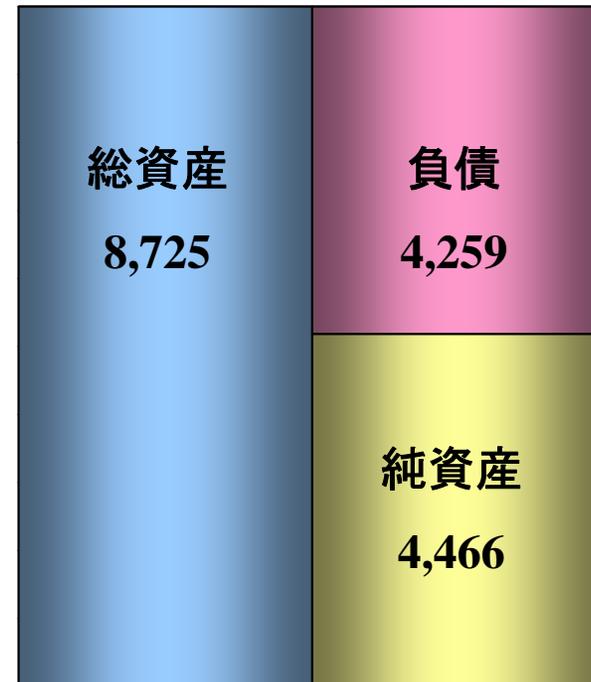
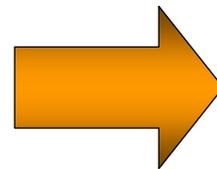
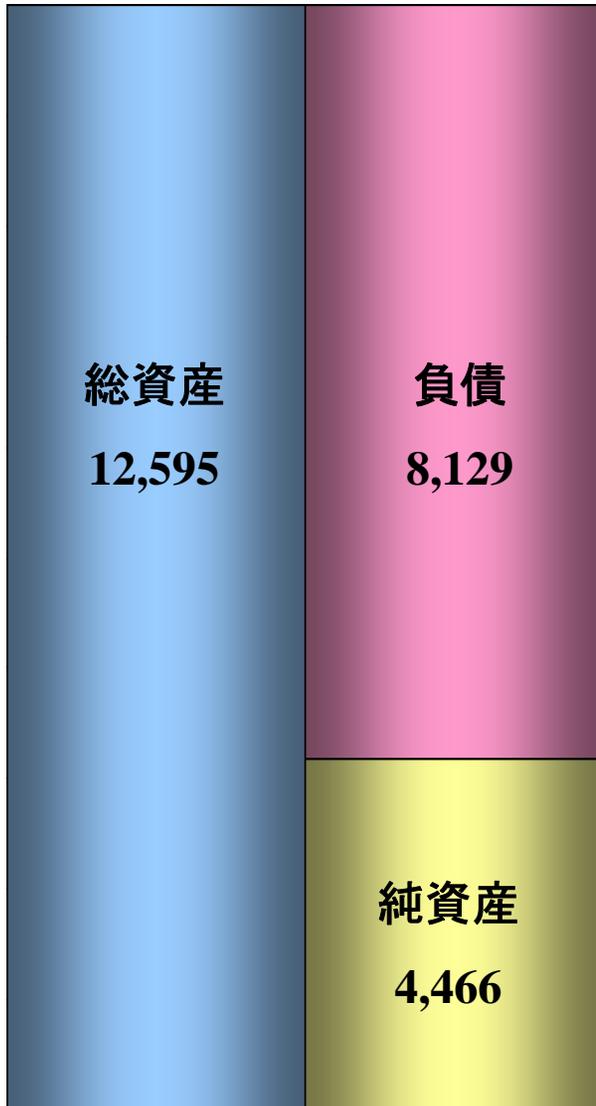
連結貸借対照表の特徴(2)

(単位:億円)

- 証券会社特有の資産・負債勘定をそれぞれ控除
- 顧客への信用取引貸付を全て証券金融会社からの信用取引借入にて賄ったとみなし、資産勘定と負債勘定の差分を流動資産として加算



負債勘定合計額相当を、流動資産、流動負債からそれぞれ控除することと一致

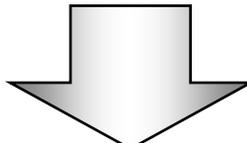


SBIホールディングスの財務安定性

SBIホールディングスの連結財務指標 (％)

		2008年3月期	2008年9月期
流動比率	※1	144.4	135.9
有利子負債比率	※2	101.0	70.1
自己資本比率	※3	19.8	30.0

証券会社特有の資産・負債勘定の影響を
考慮した実質的な数値



		2008年3月期	2008年9月期
流動比率	※1	201.3	173.3
有利子負債比率	※2	101.0	70.1
自己資本比率	※3	30.0	43.3

※1 流動資産÷流動負債で算出しており、150%以上※4が望ましいとされています。

※2 有利子負債÷自己資本(株主資本+評価換算差額)で算出しており、100%以下※5が望ましいとされています。
なお有利子負債には証券事業に係る信用取引負債等は含んでおりません。

※3 自己資本(株主資本+評価換算差額)÷総資産で算出しており、30~50%※4が望ましいとされています。

※4 『会社「経理・財務」入門』(金児昭著、日本経済新聞出版社)における基準

※5 『財務会計』(斎藤静樹編著、有斐閣)における基準

2. 主要ビジネスラインの事業概況

(1) アセットマネジメント事業

2009年3月期 第2四半期累計
売上高87億円(前年同期比78%減)
営業利益25億円(前年同期比68%減)

主な連結子会社等

- SBIインベストメント
- SBIキャピタル
- SBIキャピタルソリューションズ
- SBIアセットマネジメント

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

アセットマネジメント事業のハイライト

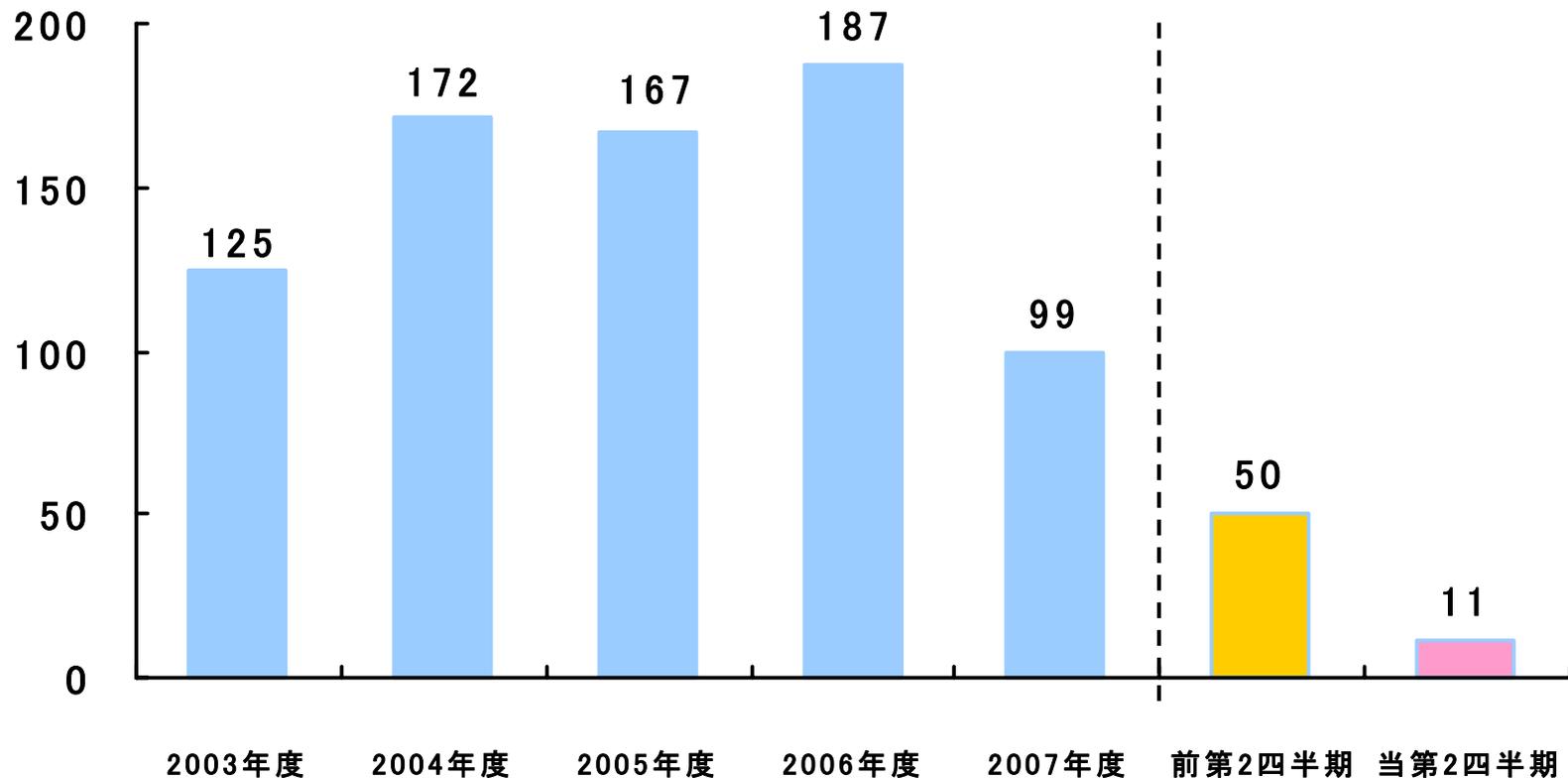
- I 当第2四半期累計の営業投資有価証券売上高は63億円（売却原価を差し引いた売却利益は47億円）。
前年同期の379億円から減少するものの、第2四半期だけでは45億円を計上。前年同期は教保生命の売却（214億円）やファンドの償還期到来に伴う一括売却（95億円）があったが、これらを除くと前年同期比でそれほど大きく減少しているわけではない。なお、当第2四半期累計の投資損失引当金繰入は12億円。
- II 当第2四半期累計の投資実行額は507億円であり、前年度に引き続き高水準で推移。
投資の選別を厳密に進めながら、資金の出し手が交渉優位性を持つこのタイミングを逃さず投資を実行。
- III アセットマネジメント事業に含まれるその他収益も着実に増えつつある。
当第2四半期累計では、SBIキャピタルソリューションズ運営のメザニンファンド（2号ファンドの直近半期の運用利回りは16.9%）からの金利・手数料収入に加え、当社より提供する財務アドバイザーに関する業務支援報酬やSBIバイオテックによる契約一時金を計上。

国内の新規上場会社数の推移

2007年度の上場会社数は100社を下回り過去5年間で最低の上場会社数で着地。

当第2四半期は2007年度の第2四半期実績を更に大きく下回る11社のみ。

(単位:社)



出所:各取引所

IPO/M&A実績

	事業開始から 2007年3月期まで	2008年3月期	2009年3月期 見通し
IPO・M&A社数	99	12	5

審査の厳格化、長期化の流れの中でも上場予備軍は着実に準備を整えつつあるが、市場の冷え込みで申請待ちの状況。

※ IPO予定件数は、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。尚、過去実績のIPO・M&A社数はすでに売却済みのものを含みます。

2009年3月期 第2四半期の投資実行額

世界的に相場が低迷した状況で、引き続き積極的に高水準の投資を実行

単位:百万円
(投資会社数)

	投資実行額			
	当2Q (7月～9月)	当上期累計 (4月～9月)	(参考) 前上期累計	(参考) 前通期累計
【ファンドによる投資分】	20,538 (41社)	40,053 (61社)	45,184 (97社)	96,596 (175社)
内 株式等	5,451 (19社)	11,502 (30社)	22,175 (51社)	40,444 (104社)
内 その他 (社債等)	15,087 (22社)	28,551 (31社)	23,008 (46社)	56,151 (71社)
【直接投資分】	3,004 (4社)	10,663 (10社)	3,556 (29社)	4,444 (33社)
内 株式等	2,924 (3社)	10,583 (9社)	3,556 (29社)	4,444 (33社)
内 その他 (社債等)	80 (1社)	80 (1社)	—	—
【 合 計 】	23,543 (45社)	50,716 (71社)	48,740 (126社)	101,041 (208社)

※1社に対し第1四半期、第2四半期とも投資実行した場合は、累計において1社とカウントし重複を排除しています。

New Horizon Fund の運用状況

2005年5月の運用開始から、投資先10社のうちこれまでに6社が上場。
一部売却により、2008年9月期までに累計**48億円**の利益を計上。

(単位:百万USDドル)

投資先名	投資残高	種類	IPO/M&A 予定	キャピタルゲイン		
				前期末	9/30現在	10/20現在
Sichuan Meifeng Chemical Industry	14.8	A株		63.7	16.3	11.1
Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development	10.2	A株		144.6	87.8	77.2
China Printing & Dyeing Holding	3.4	IPO		0.2	△1.9	△2.9 [※]
Yingli Green Energy Holding	-	IPO		4.5	-	-
Kingsoft	9.4	IPO		2.3	△0.5	△1.1
Goldwind Science and Technology	4.1	IPO		124.9	50.5	39.8
Cathay Industrial Biotech	12.0	プレM&A	2009年下期	79.1	79.1	79.1
China Stem Cells Holdings	4.1	プレIPO	2008年	17.6	17.6	17.6
Jiangsu Ealong Biotech	2.5	プレM&A	2009年下期	5.6	5.6	5.6
Shineway Group	20.4	プレIPO	2010年	15.0	15.0	15.0
合計	81.1			457.5	269.3	241.4

IPO済
時価評価

IPO/M&A
未済
予想評価

(約458億円) (約279億円) (約246億円)

※10月8日終値ベース(同日、シンガポール証券取引所が「取引売買停止」を発表したため)

【受領分配金見積額】(10/20現在の見込み)

2008年度 51億円 分配金受領の時期は、売却のタイミングによりますが、ロックアップの外れる10月以降、本格化する見込みです。

2009年度 48億円

2010年度 65億円 **総分配予定額 164億円**

現在及び将来上場もしくは売却する株式の予想時価から見積もった金額で、これら分配金額が確定しているわけではありません。

グループ運用資産総額の状況

2008年9月末現在億5,758円(住宅不動産関連セグメント等を含む)

プライベート・エクイティ 2,623億円

〔IT・バイオ等〕 合計 1,212

インターネット	67
ブロードバンド・メディア	615
モバイル	288
バイオ・その他	242

〔直接投資〕 312

〔環境・エネルギー〕 70

〔バイアウト・メザニン〕 合計 339

バリュウアップ	210
メザニン	129

〔海外〕 合計 689

中国・香港・その他※	484
ベトナム※	102
インド※	104

〔投資信託等〕 2,598億円

投資信託	437
投資顧問	2,136
投資法人	25

〔不動産等〕 537億円

開発物件	224
稼働物件	313

不動産は投資総額、投資信託・投資顧問等は2008年9月末の時価純資産、その他ファンドは2008年9月時点の各ファンドの直近決算に基づく時価純資産で記載。億円未満は四捨五入。

※決算期を迎えていないものについては、出資約束金額ベースで算出。

(2) 証券関連事業

2009年3月期 第2四半期累計
売上高 270億円(前年同期比 26%減)
営業利益 47億円(同 59%減)

主な連結子会社等

- SBI証券
- SBIフューチャーズ
- SBIジャパンネクスト証券(持分法適用)

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

圧倒的顧客基盤を背景にシェアを拡大し続けるSBI証券

証券市場全体の低迷による委託手数料の減少が影響し、営業収益は前年同期比18.2%減の267億円、営業利益は前年同期比49.4%減の64億円となった。

① 口座数は引き続き同業他社を大きく上回る

- 2008年9月末総口座数 173万口座
(2007年9月末 150万口座、2008年3月末 166万口座)
- 2009年3月期第2四半期(2008年7月～9月)の獲得口座数は35,076口座となり、同業他社を大きく上回る

② 前年同期比で上昇を続ける売買代金シェア

- 2009年3月期第2四半期累計の個人株式委託売買代金シェアは前年同期より3.9ポイント上昇し38.0%、個人信用取引委託売買代金シェアは前年同期より5.3ポイント上昇し44.1%となる
- 2008年9月単月の個人株式委託売買代金シェアは45.4%、個人信用取引委託売買代金シェアは50.8%となり、過去最高を更新

③ 引き続き収益源の多様化を進め、収益の安定化を図る

- FX取引は、正規手数料の無料化およびスプレッドの大幅縮小(2008年7月～)により大幅に拡大。2008年9月の月間売買代金は、2008年6月の5.9倍となる2兆5,495億円。

2009年3月期第2四半期において、E*TRADE Korea株式の売却に伴う特別利益を計上した一方、含み損となっていたファンドを売却し、12億円を特別損失として処理済み。

2009年3月期第2四半期 SBI証券連結業績

(単位:百万円、%)

	2008年3月期 2Q累計連結決算	2009年3月期 2Q累計連結決算	前年同期比 増減率
営業収益	32,578	26,658	▲18.2
純営業収益	29,249	23,699	▲19.0
営業利益	12,658	6,406	▲49.4
経常利益	12,539	6,445	▲48.6
中間純利益	7,334	8,902	+21.4

SBI証券 四半期業績(連結)推移

(単位:百万円、%)

	2008年3月期			2009年3月期		
	第2四半期 (2007年7~9月)	第3四半期 (2007年10~12月)	第4四半期 (2008年1~3月)	第1四半期 (2008年4~6月)	第2四半期 (2008年7~9月)	前四 半期比 増減率
営業収益	17,138	17,205	14,715	13,921	12,736	▲8.5
純営業収益	15,133	15,675	13,092	12,579	11,120	▲11.6
営業利益	6,544	5,966	4,217	3,879	2,527	▲34.9
経常利益	6,426	5,921	3,945	4,021	2,423	▲39.7
四半期純利益	4,113	4,202	※1 385	2,808	※2 6,094	+117.0

※1.E*TRADE Korea 株式の売却に係る基本合意の締結に伴い、2008年3月期第4四半期に繰延税金負債約14.9億円を計上

※2.E*TRADE Korea 株式の売却に伴い、2009年3月期第2四半期に特別利益約100億円を計上

証券業界におけるポジショニング

(2009年3月期第2四半期累計連結業績)

営業収益ランキング

単位:百万円

1	野村 ※1	515,608
2	大和	296,935
3	三菱UFJ	288,254
4	みずほ	207,193
5	日興 ※2	141,352
6	新光	63,400
7	岡三	29,301
8	SBI	26,658
9	東海東京	24,827
10	SMBCフレンド	24,582
11	みずほインベ	21,241
12	松井	15,022
13	マネックス	13,952
14	楽天	12,331
15	カブドットコム ※3	8,706
16	いちよし	8,640
17	コスモ	8,142
18	東洋	7,102

営業利益ランキング

単位:百万円

1	松井	6,487
2	SBI	6,406
3	三菱UFJ	5,120
4	日興 ※2	4,285
5	マネックス	3,998
6	SMBCフレンド	3,432
7	カブドットコム ※3	3,310
8	楽天	2,611
9	東海東京	1,506
10	岡三	122
11	いちよし	▲501
12	東洋	▲591
13	新光	▲994
14	コスモ	▲3,563
15	みずほインベ	▲6,152
16	みずほ	▲17,239
17	大和	▲26,616
18	野村 ※1	▲153,605

当期利益ランキング

単位:百万円

1	SBI	8,902
2	松井	3,923
3	SMBCフレンド	2,872
4	カブドットコム ※3	2,091
5	東海東京	2,047
6	日興 ※2	1,954
7	岡三	683
8	マネックス	244
9	新光	56
10	東洋	▲372
11	いちよし	▲865
12	コスモ	▲2,523
13	楽天	▲3,966
14	みずほインベ	▲5,913
15	三菱UFJ	▲11,081
16	大和	▲14,637
17	みずほ	▲19,810
18	野村 ※1	▲149,464

(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)

(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)

(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)

※1 野村は米国会計基準。営業利益、経常利益には税引き前利益を使用。

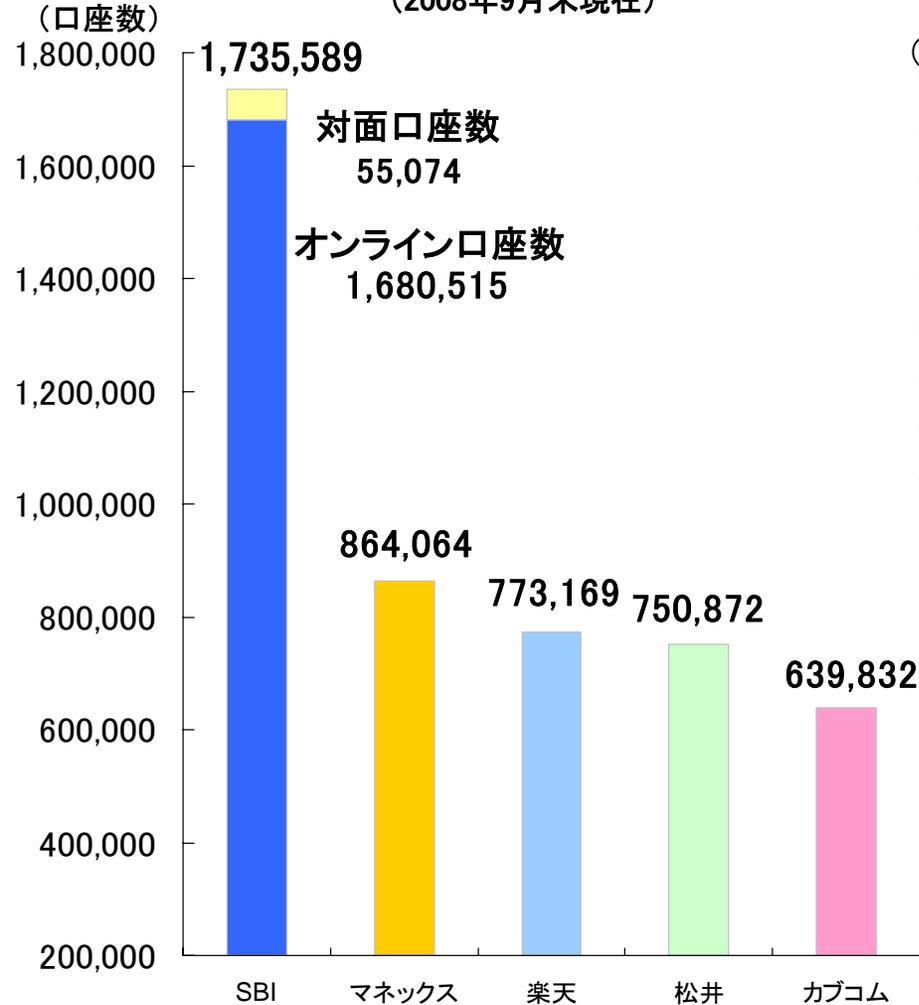
※2 日興は日興コーディアル証券と日興シティ証券の合算ベース

※3 単独

主要オンライン証券の口座数比較

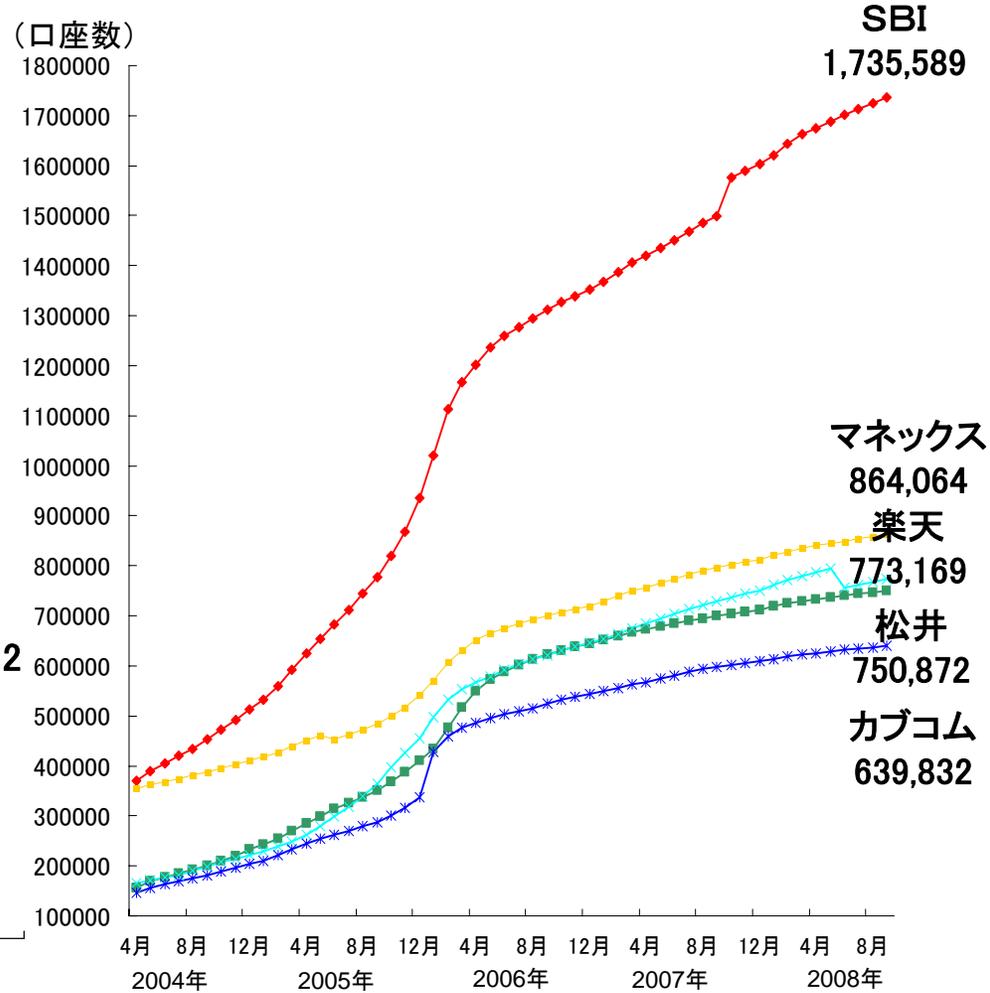
主要オンライン証券5社の口座数

(2008年9月末現在)



主要オンライン証券5社の口座数推移

(2004年4月から2008年9月まで)



出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

※ 1. マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。 2. カブドットコム証券は2006年1月1日にMeネット証券と合併
 3. (株)SBI証券(旧SBIイー・トレード証券)は2007年10月1日にSBI証券(株)と合併
 4. 楽天証券は2008年6月に一部不稼働口座の閉鎖を実施

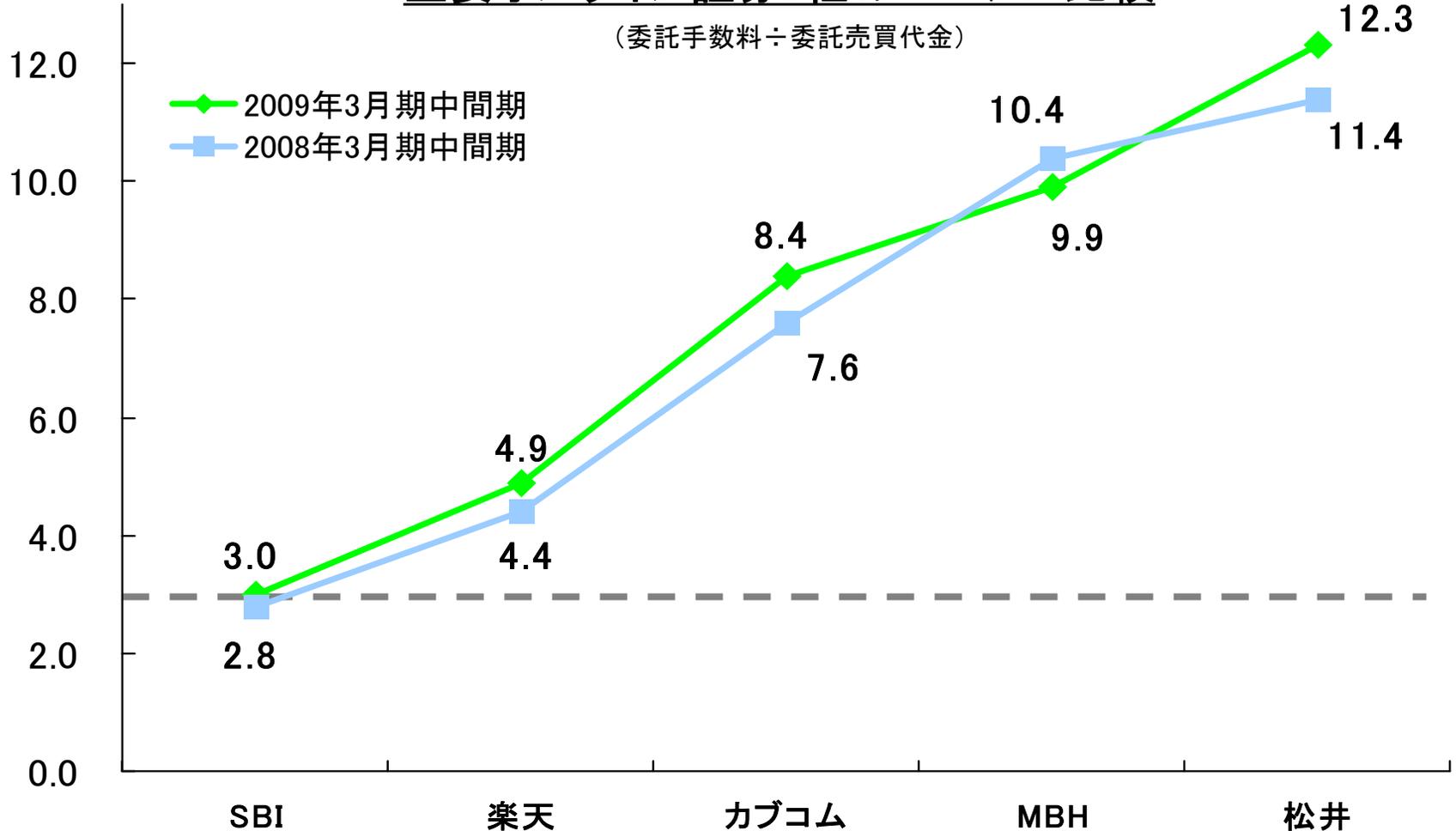
主要オンライン証券のベースス比較

手数料体系に変更はないものの、1約定あたり売買代金の低下に伴いベーススが上昇

(ベースス)

主要オンライン証券5社のベースス比較

(委託手数料 ÷ 委託売買代金)



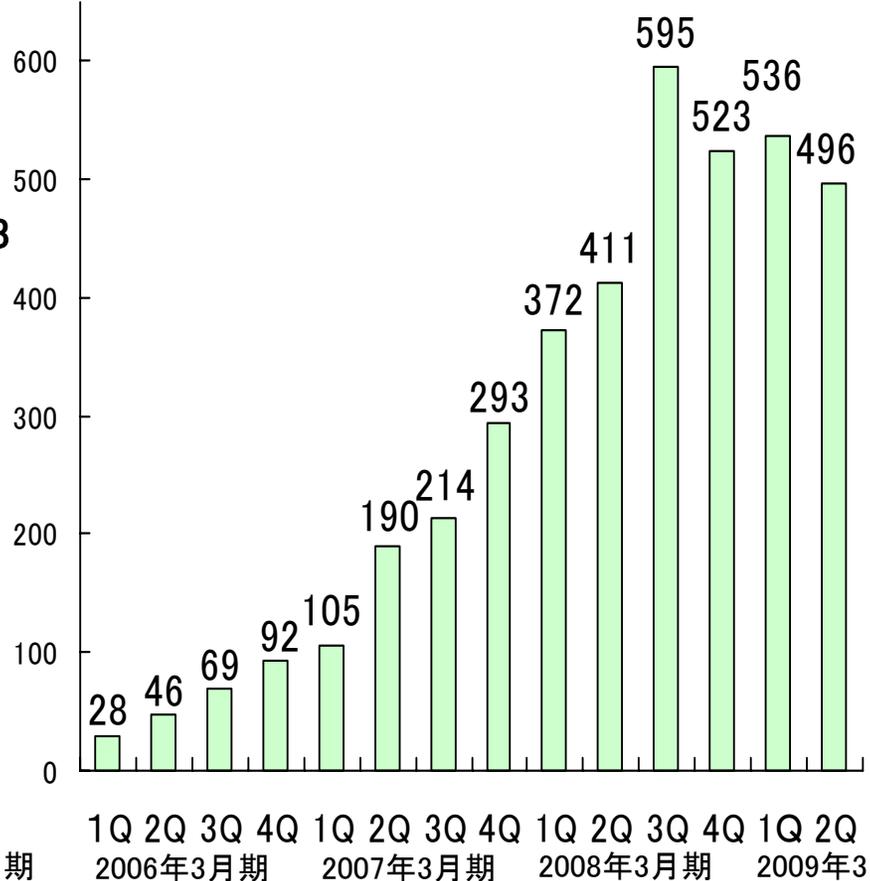
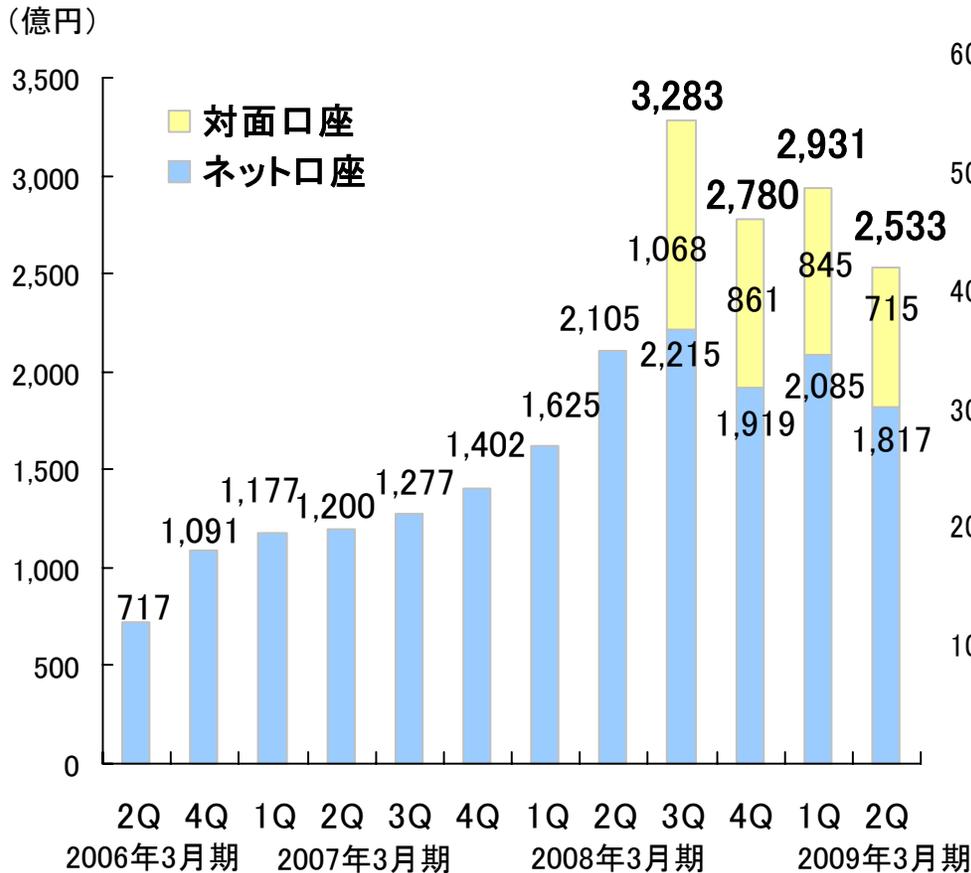
出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成。委託手数料は決算短信より単体数値を使用。
SBI証券はインターネット部門のみの数値を使用。

投資信託残高と信託報酬の推移

投資信託 四半期末残高の推移

(百万円)

投資信託 信託報酬額の推移



(注)MMF、中国ファンドおよび対面口座の預りを含む。

(注)MMF、MRF、中国ファンドおよび対面口座の預りを含む。
信託報酬は「その他受入手数料」に含まれます。

(3) ファイナンシャル・サービス事業

2009年3月期 第2四半期累計

売上高 111億円(前年同期比 6%増)

営業利益 8億円(同11%減)

内 既存事業

売上高 112億円(前年同期比 7%増)

営業利益 15億円(同 11%減)

内 新規事業

売上高 4億円(前年同期比 245%増)

営業利益 ▲7億円(前年同期比—)

主な内訳:

カード(▲2億円)
 カードプロセッシング(▲3億円)
 ネット生保(▲1億円)

主な連結子会社等

- SBIホールディングス(事業部)
- モーニングスター
- ゴメス・コンサルティング
- SBIベリトランス
- 住信SBIネット銀行(持分法適用)
- SBI損害保険
- SBIアクサ生命保険
- SBIカード
- SBIカードプロセッシング

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

ファイナンシャル・サービス事業のハイライト

【既存事業】

- ① モーニングスターの中間業績は、前年同期間と比較して連結では子会社ゴメスの不調等により減収減益となったものの、単体では売上高が前年同期間比で129.7%増の1,335百万円、当期利益が同42.0%増の186百万円となり、単体では大幅な増収増益に
- ② ゴメス・コンサルティングの第2四半期業績は、第1四半期と比較して改善したものの、金融機関向け売上高の低迷を背景に、当初計画を下回る水準で推移
- ③ SBIベリトランスの連結業績は、EC市場の拡大などを背景に、売上高・営業利益・経常利益・当期利益の全項目において、前年同中間期比30%超を達成
- ④ 金融系比較サイト事業は、インズウェブが引き続き好調に見積もり件数を伸ばしたことで、全体の取引件数は42万7千件と微増ながら過去最高を更新。イー・ローンにおいて消費者金融業界の低迷が影響するも、マーケットプレイス事業は前年同
期比で増収を達成

【新規事業】

- ① 07年9月開業の住信SBIネット銀行は、預金残高5,000億円を突破、口座数は27万
口座超(2008年10月30日現在)と、順調に進捗
- ② 本年1月開業のSBI損保は、保険料引き下げやサイトリニューアルが奏功して成約
件数が伸長。本年4月開業のSBIアクサ生保は、募集代理店での商品販売などを
通じて新規契約件数の獲得を図る

上場子会社 各社業績

(単位:百万円、()内は前年同期比増減率%)

※1	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益
※2 モーニングスター 2009年3月期 第2四半期累計	1,603 (-)	246 (-)	286 (-)	180 (-)
※2 ゴメス・ コンサルティング 2009年3月期 第2四半期累計	228 (-)	▲7 (-)	▲3 (-)	▲2 (-)
SBIベリトランス 2009年3月期 第2四半期累計	2,195 (+40.9)	449 (+34.0)	454 (+32.9)	268 (+33.9)

※1 モーニングスター、SBIベリトランスは連結業績、ゴメス・コンサルティングは単体の業績を掲載しております。

※2 モーニングスター、ゴメス・コンサルティングにつきましては、前事業年度は決算期変更に伴い、2007年1月1日から2008年3月31日までの15ヶ月間となっております。このため、前年同期比増減率は記載しておりません。

(4) 住宅不動産関連事業

2009年3月期 第2四半期累計
売上高 238億円(前年同期比 25%減)
営業利益 13億円(同 70%減)

主な連結子会社等

- SBIホールディングス(事業部)
- リビングコーポレーション
- SBIモーゲージ
- セムコーポレーション

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

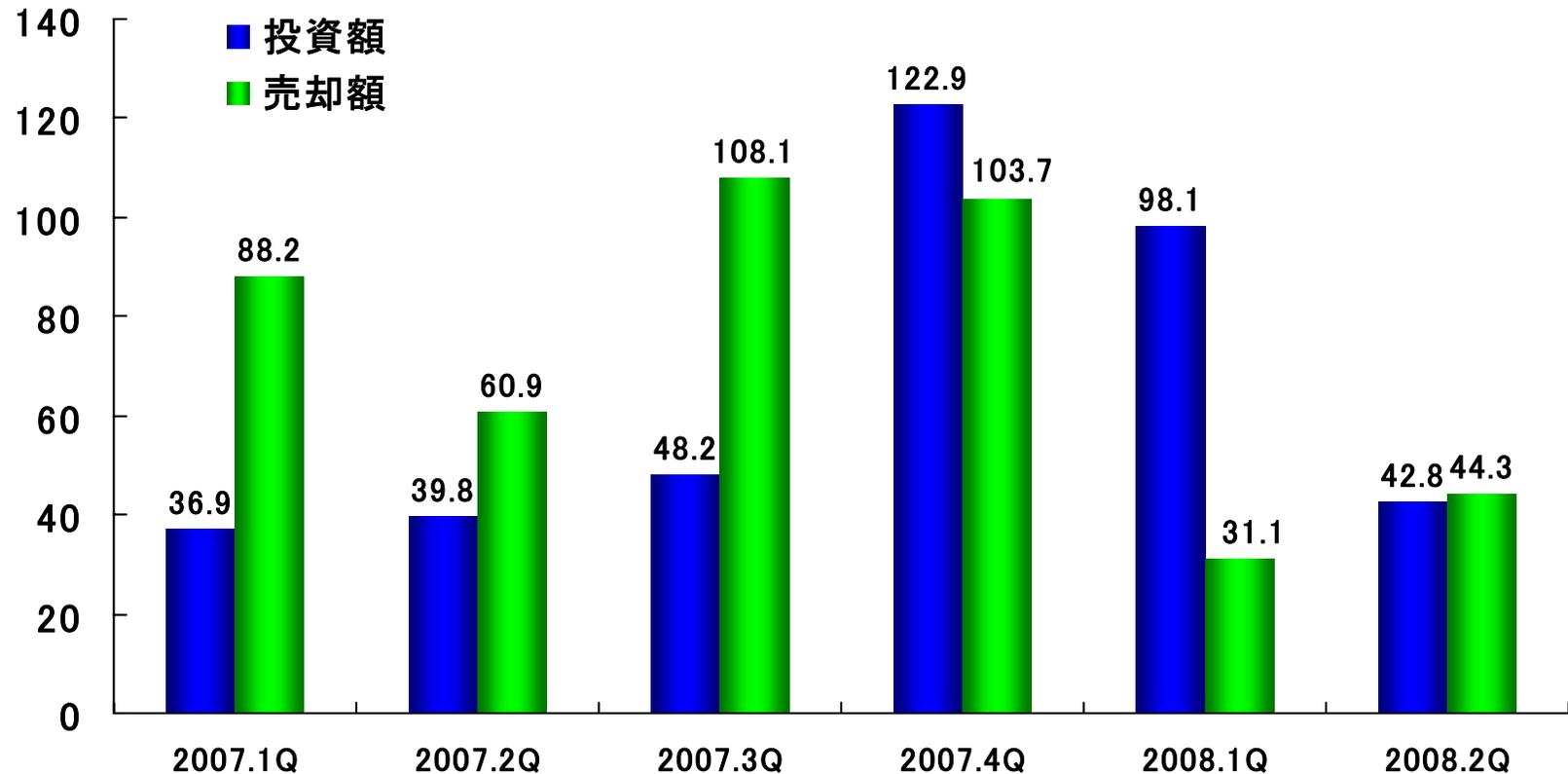
住宅不動産関連事業のハイライト

- I 住宅不動産関連事業は、国内の不動産市場収縮の影響等により、対前年同期比で売上高は25%減の238億円、営業利益は70%減の13億円となる。
- II 不動産事業については、2008年3月期第2四半期には物件の売却が集中していた反面、当第2四半期は、予定していた物件の売却が第1四半期(2008年4~6月期)までにほぼ一巡したため、前年同期比では売上高が大幅に減少。なお新規投資は、アジア地域を中心に実行。
- III 現在の不動産市況を鑑み、子会社リビングコーポレーションにSBIグループから55億円の借入極度枠を設定。9月末の極度枠使用額は8億円で、概ね同社単独でも事業展開できている。
- IV SBIモーゲージは住宅ローン商品「フラット35」を業界最低水準金利で提供、2008年9月末には実行残高は4,000億円を突破し順調に拡大中。
- V 生活関連ネットワーク事業も順調に成長。比較検索サイト事業ならびに仲介マーケット事業の合算営業利益は、前年同期比116.6%増の222百万円と大幅に増加。

国内外の不動産市況の推移を慎重に見極めながら 不動産の売却・投資を実行

SBIホールディングス 不動産事業本部における 不動産投資額及び売却額の四半期別推移

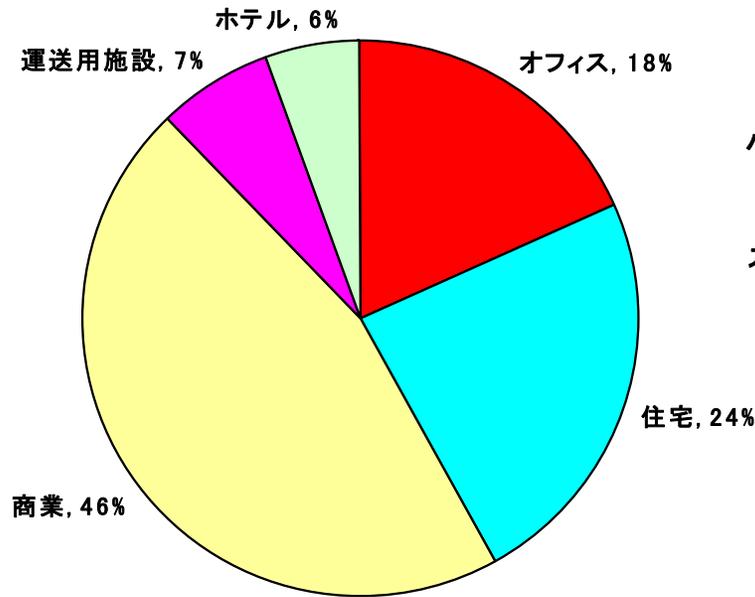
億円



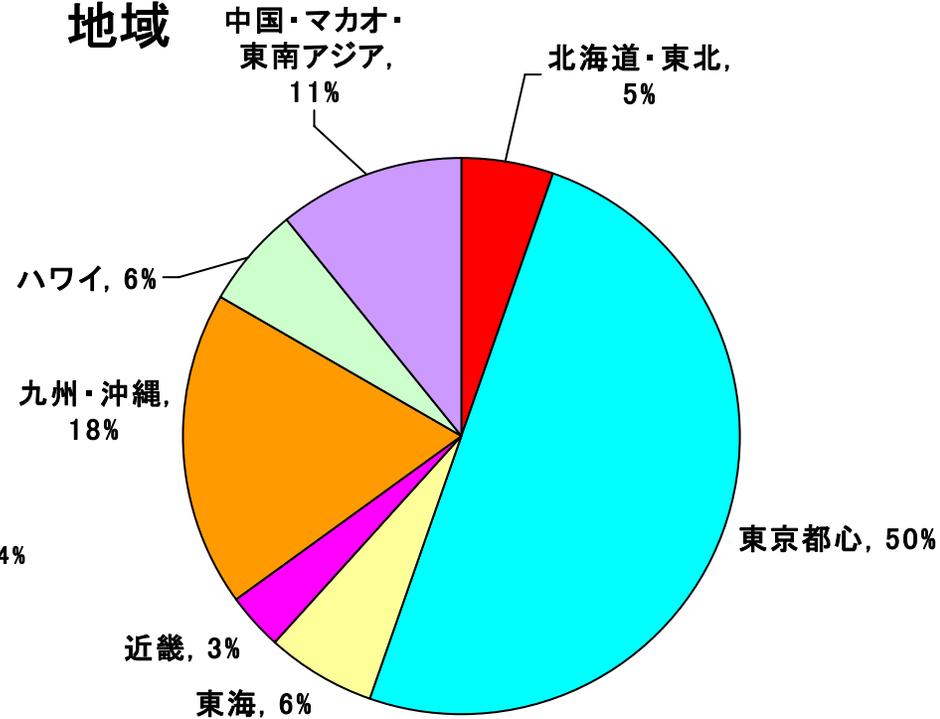
※当該投資及び売却額は不動産事業本部における実績を記載しております。

当社不動産事業における保有物件の状況

不動産物件の種類



地域

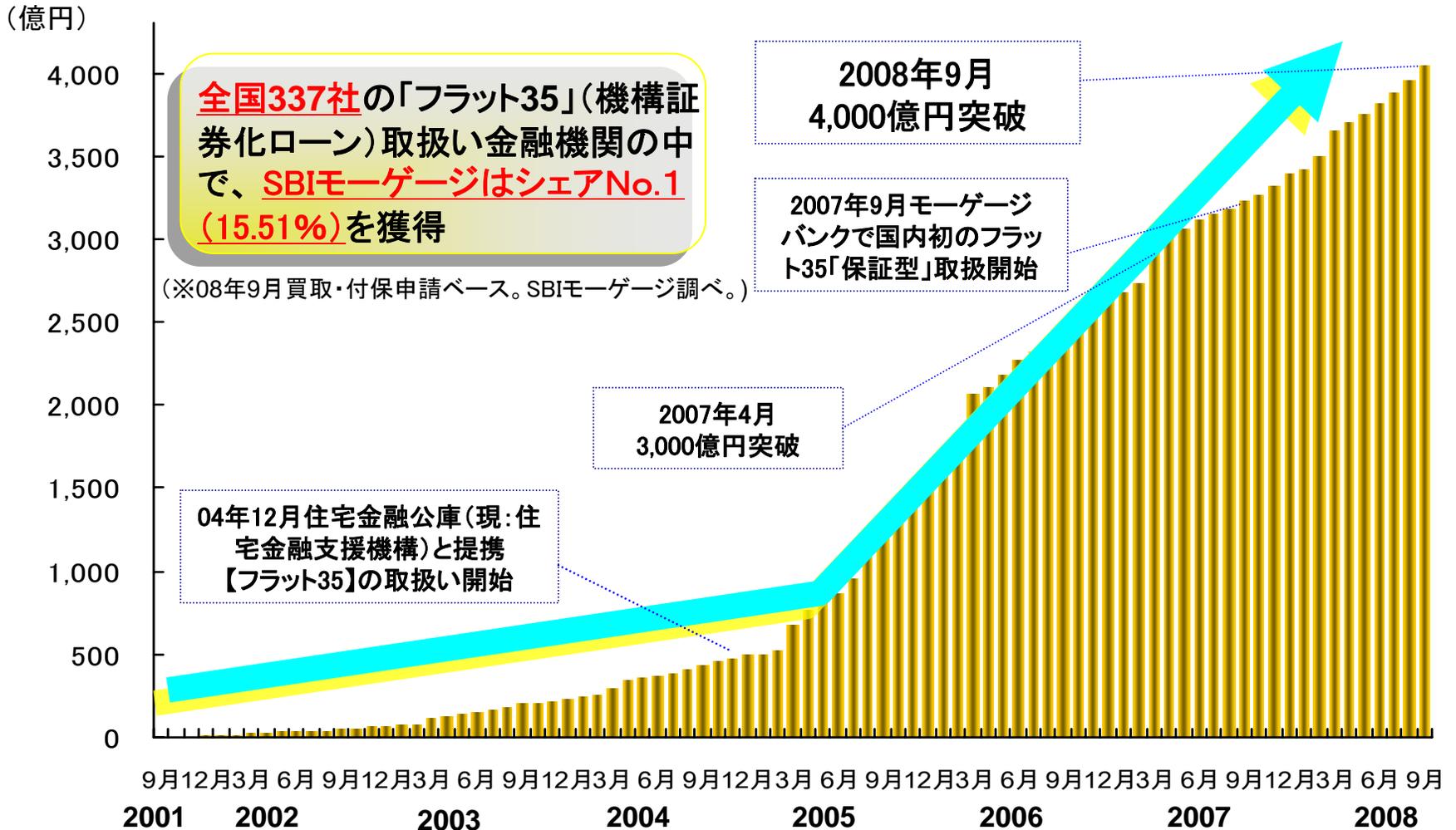


※2008年9月末現在

**ローンによるレバレッジをかけた開発は行わず、
自己資金での開発が中心**

順調に残高を積み上げ拡大するSBIモーゲージ

SBIモーゲージが取扱う「フラット35」(機構証券化ローン)の金利は2.77%^(※)と最低水準金利で提供、2008年9月末現在の住宅ローン実行残高は**4,041億円**と、順調に拡大中 ^{(※)08年10月買取型の融資実行金利}



加速する「SBI住宅ローンショップ」の展開

2007年2月以降の全国的な店舗展開は、**2008年よりさらに加速**

SBI住宅ローンショップの出店店舗数の推移

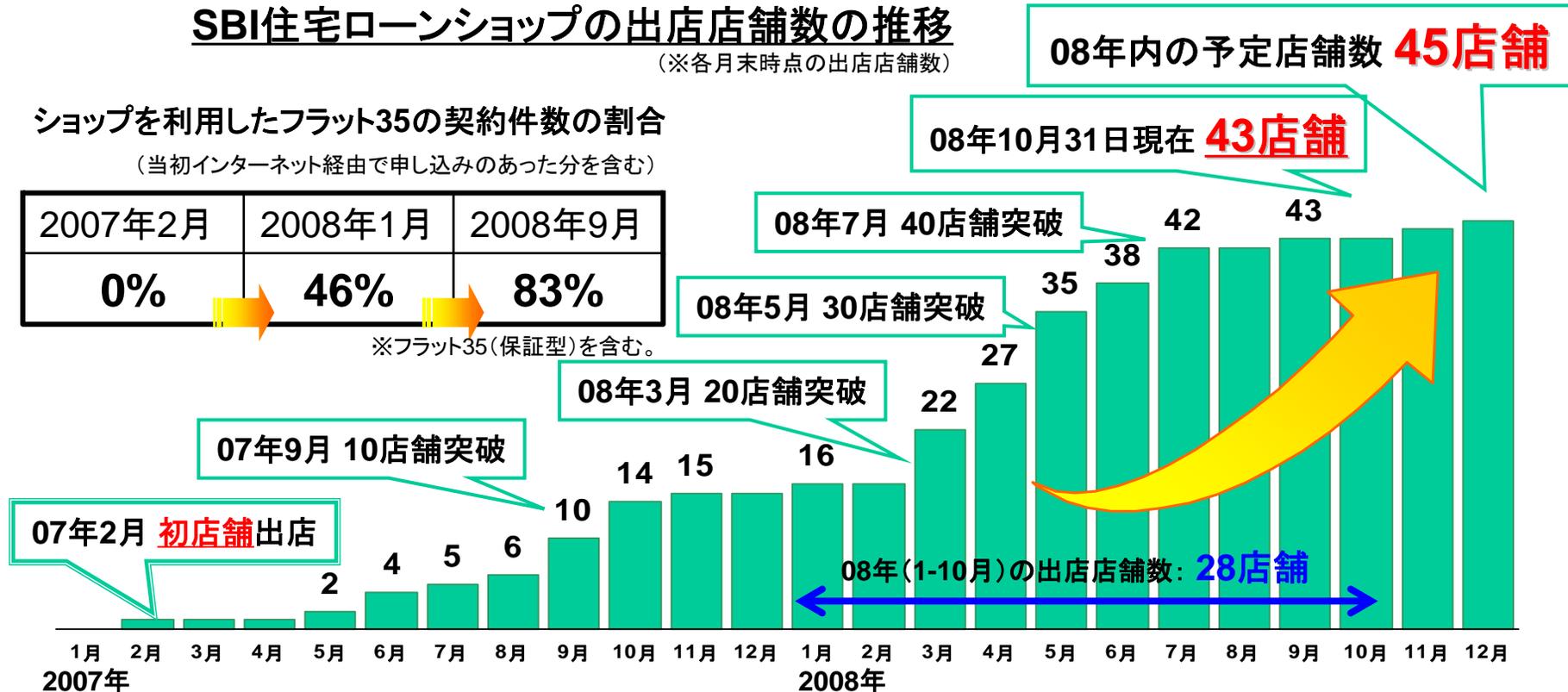
(※各月末時点の出店店舗数)

ショップを利用したフラット35の契約件数の割合

(当初インターネット経由で申し込みのあった分を含む)

2007年2月	2008年1月	2008年9月
0%	46%	83%

※フラット35(保証型)を含む。

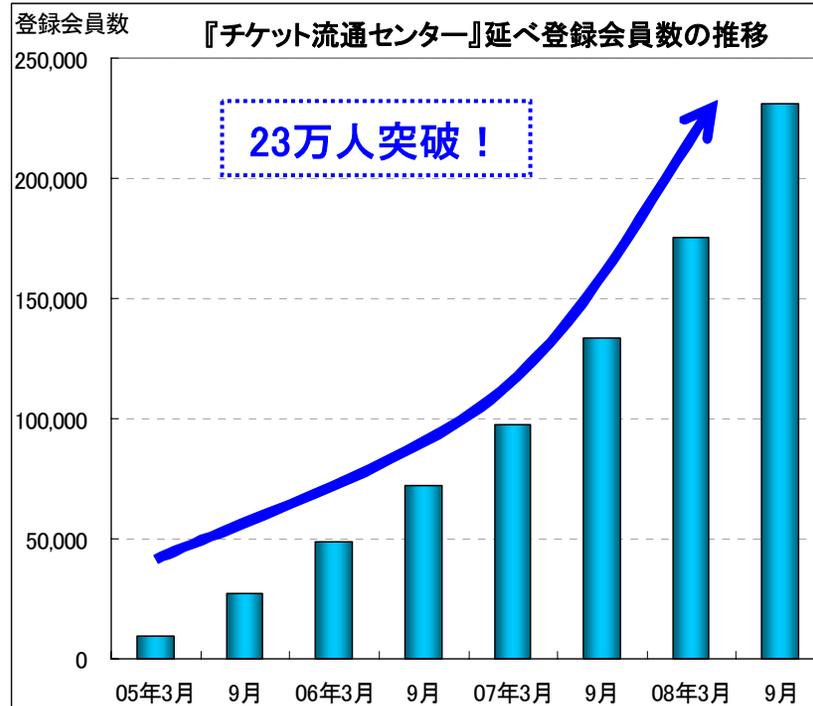


- ・住宅ローン以外に金融商品ラインナップを拡大(7月より生命保険商品の販売を開始)
- ・株式市況の低迷を鑑み、上場時期を延期予定
- ・SBI証券との共同店舗を検討
- ・SBI損保の自動車保険商品の取り扱いを準備中

大きな成長をみせる生活関連ネットワーク事業

仲介サイトを運営する「仲介マーケット事業部」

- ・当中間期は、**売上高が前年同期比85.7%増**の398百万円、**営業利益が同120.8%増**の202百万円と、大きく躍進
- ・興行チケットの個人間売買仲介サービスを提供する「チケット流通センター」は、**会員数が23万人を突破**
- ・商品の売買取引仲介サイト「muSBI(ムスビー)」においても**成約数、会員数が共に大幅増加**



比較・検索サイトを運営する「インターネットメディア事業部」

- ・当中間期は、**売上高が前年同期比5.2%増**の131百万円、**営業利益が同82.4%増**の20百万円と、大幅な増益
- ・引越しの見積もりサイト「引越し達人セレクト」では、**モバイル経由での見積もりが大幅増**となったほか、格安航空券比較サイト「ALL格安航空券比較」は**参加会社が増加**

3. 現在及び今後1、2年の経営環境に どのように対処しているか

- (1) 新規事業の早期黒字化や赤字幅の縮小努力
- (2) 利益拡大に速効性のある事業の立ち上げ
- (3) 将来の株式市場反転・上昇に備えた準備推進
- (4) 株式市場の影響を比較的受けにくいバイオ関連事業の早期育成
- (5) 経営環境に応じた組織再編成(剪定)

(1) 新規事業の早期黒字化や赤字幅の縮小努力

【SBIジャパンネクスト証券】(2007年 8月開業)

【住信SBIネット銀行】 (2007年 9月開業)

【SBI損害保険】 (2008年 1月開業)

【SBIアクサ生命保険】 (2008年 4月開業)

【SBIカード】 (2006年11月開業)

【SBIジャパンネクスト証券】

～昼間取引開始により大幅な収益改善を見込む～

他社を上回る夜間取引の売買代金

PTS取引への参入は後発ながら、取引開始時より夜間取引において先行各社を大幅に上回るボリュームを維持

PTS運営各社の売買代金比較(9月・単月)

(百万円)

	取引開始月	夜間	昼間
ジャパンネクスト PTS	2007年8月	21,320	10月28日より 順次テスト 取引開始
マネックスナイター	2001年1月	2,439	-
kabu.comPTS	2006年9月	368	25,066

kabu.comPTSは
昼間取引開始後に
取引量が大幅拡大

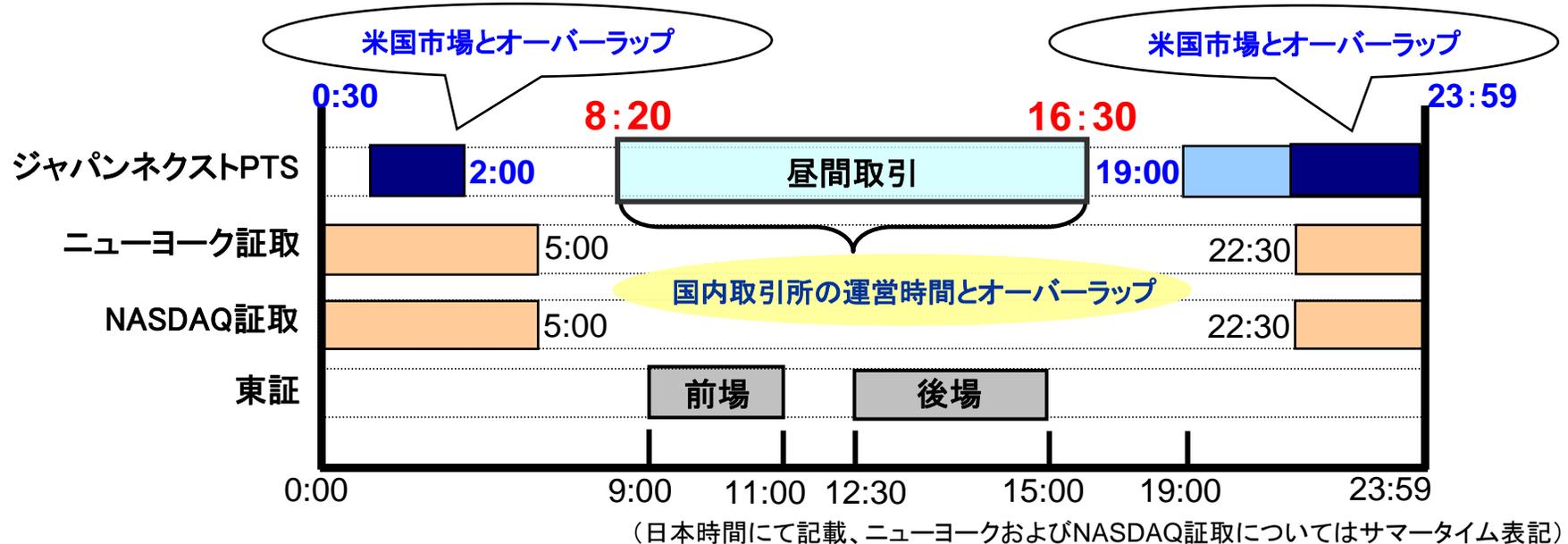


ジャパンネクストPTS
においても昼間取引
への参入に伴い、更
なる取引量の増加を
期待

(※)シングルカウントとなっており、売りと買いの合計ではありません
出所: 各社HPより当社にて集計

昼間取引を開始(午前8:20～午後4:30)

～外資系証券を中心に10月28日よりテスト的な取引を開始～
→ その後順次取引を拡大



昼間取引・接続証券会社

- ゴールドマン・サックス証券
- クレディ・スイス証券
- メリルリンチ日本証券
- UBS証券 など主要外資系証券5社

SBI証券は12月半ばから参加の予定

他の主要外資系証券数社も参加予定

※それぞれ自社のシステムの状況や運用体制についての最終確認をしながら順次取引を開始

顧客利便性の向上へ向けて

◆呼値の刻み:

昼間取引における「呼値の刻み」は、**東証の10分の1以下**
 (夜間は東証と対応)



**取引所の最良気配よりも有利な値段で取引
 できる機会の提供**

値段の水準		呼値の刻み		
		ジャパンネクストPTS(昼間)	kabu.comPTS	東証
1円以上	2,000円以下	0.1円	1円	1円
2,000円超	3,000円以下	0.5円	1円	5円
3,000円超	30,000円以下	1円	1円	10円
30,000円超	50,000円以下	5円	10円	50円
50,000円超	300,000円以下	10円	10円	100円
300,000円超	3,000,000円以下	100円	100円	1,000円
3,000,000円超	20,000,000円以下	100円	1,000円	10,000円
20,000,000円超	30,000,000円以下	100円	1,000円	50,000円
30,000,000円超		100円	10,000円	100,000円

◆**特定の執行条件を付した多様な注文形態にも対応**
 (夜間は指値注文のみ)

【住信SBIネット銀行】

～来年度黒字化が視野に～

開業時の事業計画

(2007年9月24日開業)

- ・目標口座数 2010年3月期:40万口座程度、2012年3月期:60万口座程度
- ・目標預金量 2010年3月期:7,000億円程度、2012年3月期:1兆円程度
- ・目標収益 2010年3月期:単年度黒字化
2012年3月期:当期純利益50億円程度・累損解消

預金残高は開業から389日で5,000億円を突破

競争力のある金利の設定、個人顧客に対する手数料無料でのATM入出金・振込取引の提供のほか、各種キャンペーンの展開により、2007年9月24日の開業から389日で預金残高が5,000億円を突破した。

各行が預金残高5,000億円突破に要した日数

	開業日	預金残高が 1,000億円を 超えた時期 (注1)	開業からの 日数	預金残高が 5,000億円を 超えた時期 (注1)	開業からの 日数	預金残高 (注2)
イーバンク銀行	2001/7/23	2003/10/1～ 2004/3/31	801～ 983日	2007/4/20	<u>2,098日</u>	7,768億円
ジャパンネット銀行	2000/10/12	2002/10/1～ 2003/03/31	720～ 901日	—	—	4,343億円
ソニー銀行	2001/6/11	2002/3/1～ 2002/03/31	264～ 294日	2004/12/1～ 2004/12/31	<u>1,270～ 1,300日</u>	13,382億円
住信SBIネット銀行	2007/9/24	2007/11/19	57日	2008/10/16	<u>389日</u>	5,037億円

(注1) 各行公表資料より、預金残高がそれぞれの金額を超えたことが判明した時期

(注2) 住信SBIネット銀行は2008年10月16日の残高、ジャパンネット銀行は2008年6月末の残高、ソニー銀行・イーバンク銀行は2008年9月末の残高

順調に拡大する住信SBIネット銀行の顧客基盤



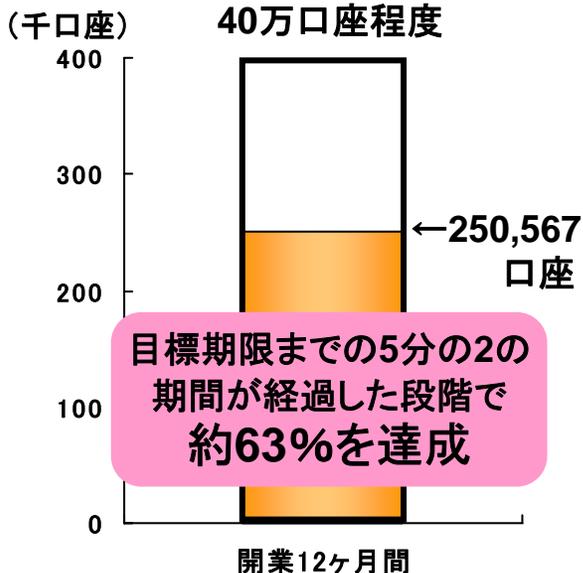
2008年9月末時点 ※()内は2008年10月28日現在の速報値

口座数:	250,567口座	(272,564口座)
預金量:	4,866億円	(5,064億円)
貸出金残高:	905億円	(975億円)
	(住宅ローン+ネットローン)	

<2008年9月末での達成率>

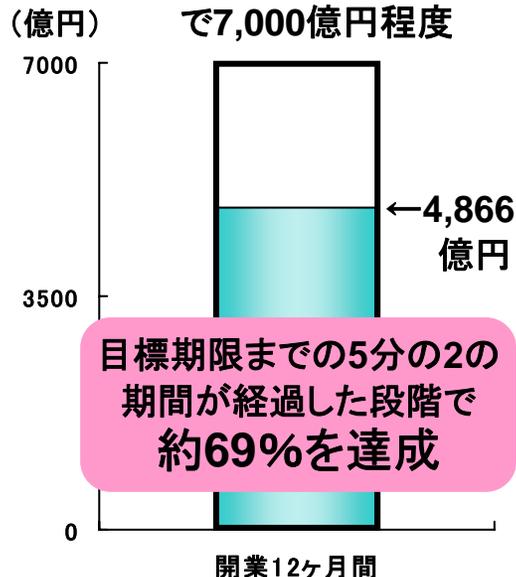
口座数

目標:2010年3月末で
40万口座程度



預金量

目標:2010年3月末
で7,000億円程度



2008年10月28日時点での達成率

口座数:272,564口座
約68%を達成

預金量:5,064億円
約72%を達成

急速に増加する預金運用のための5つの柱

グループシナジーを追求することで多様な顧客ニーズへのトータルソリューションの提供と同時に運用の安定化・多様化を図る

◆住宅ローン

- ・申し込みベースで前期10,000件超を突破するなど順調に推移(前々期は4,691件)

◆個人向け無担保ローン

- ・限度額500万円で、最優遇貸出金利は5.5%
⇒個人ローン事業においても競争力の高い金利水準を実現
- ・SBIイコール・クレジットの債権を一部移管予定

◆オートローン

- ・保証会社が決まり商品性がほぼ確定、準備中

◆不動産担保ローン

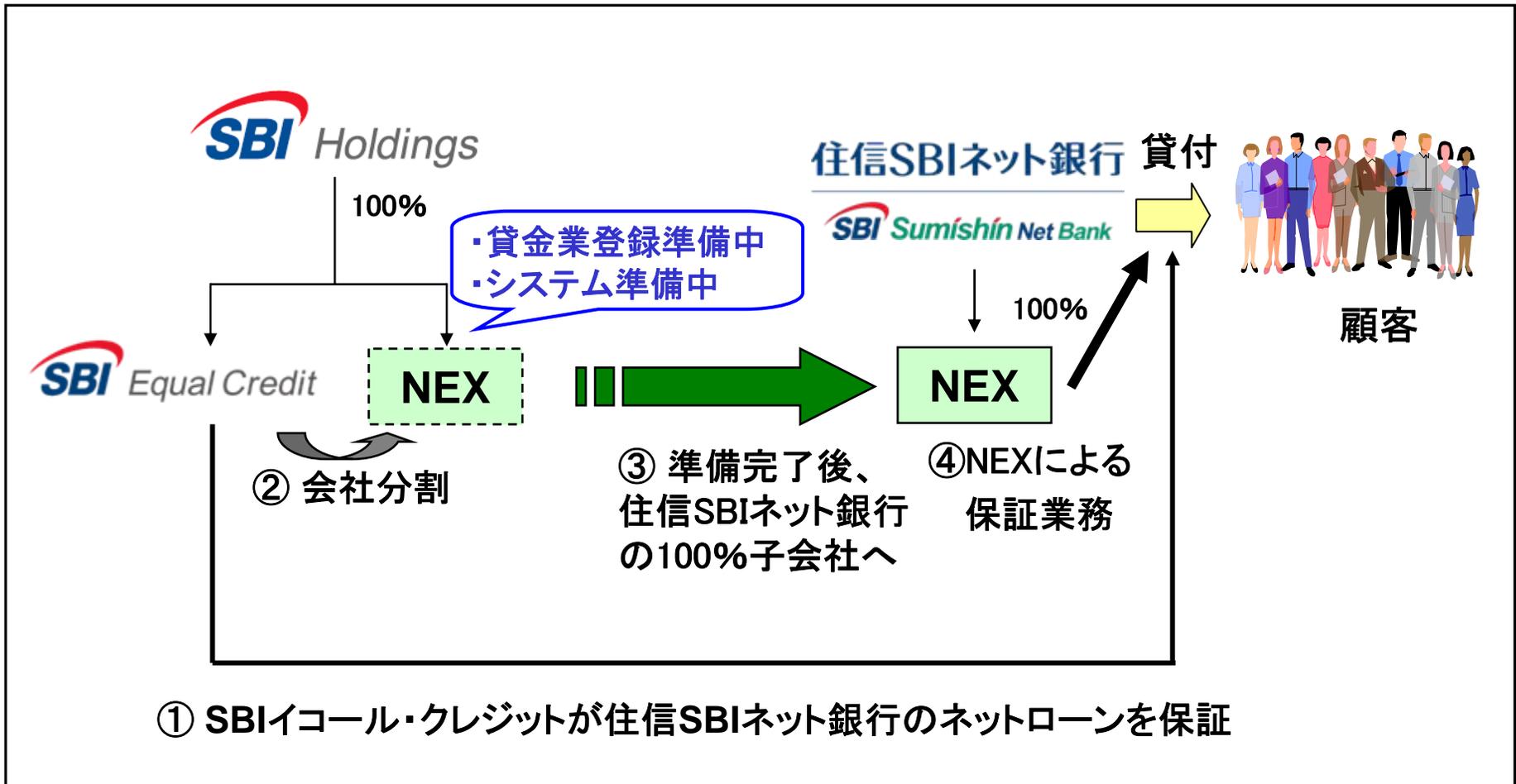
- ・ファーストクレジット株式会社の保証(個人向け)、株式会社セムコーポレーションの保証(事業会社向け)にて取扱開始中

◆診療報酬債権ファクタリング(レセプトファイナンス)

- ・SBIレセプト社から診療等報酬債権を譲受けるスキームを開始(11月)

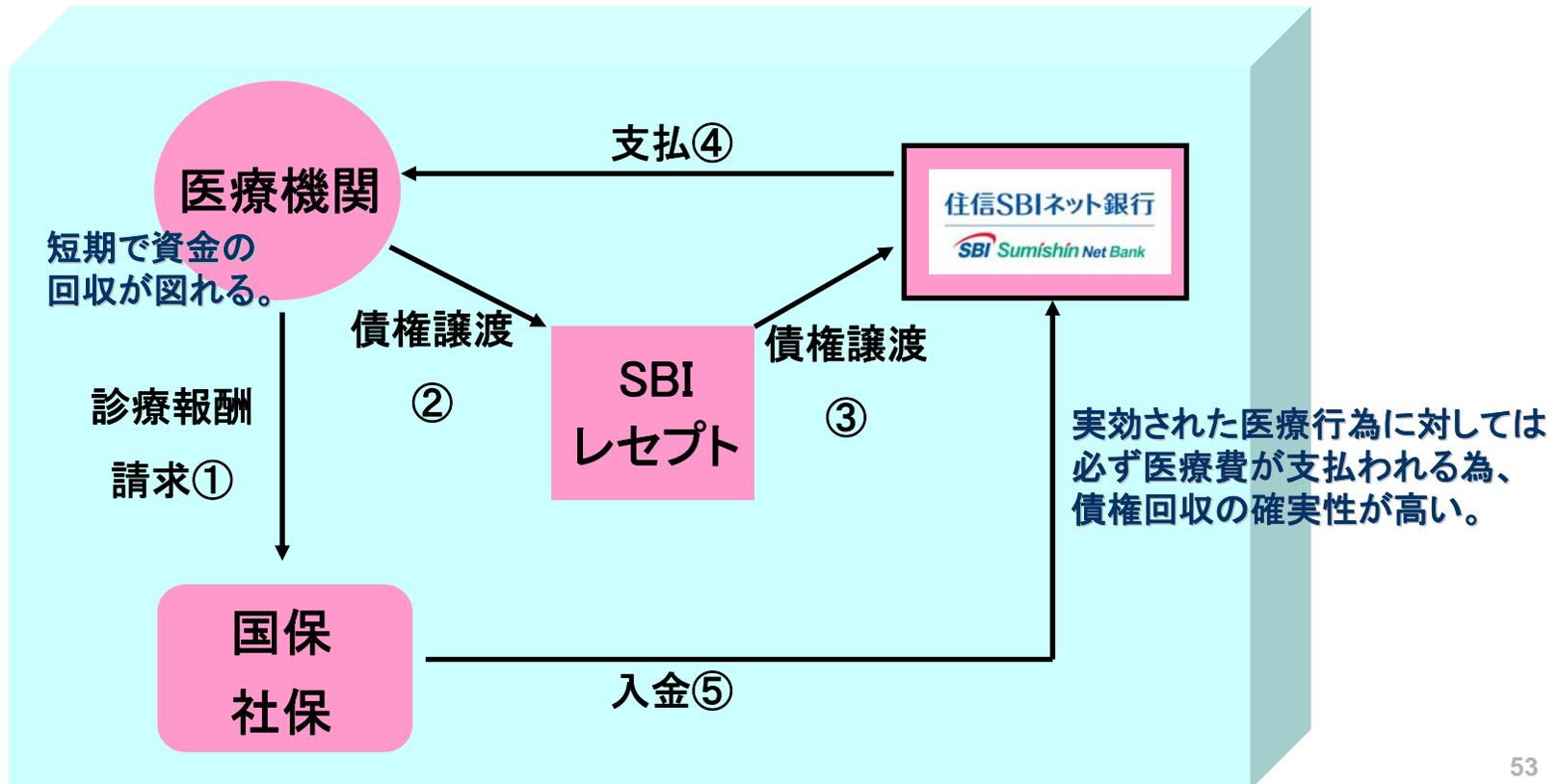
個人ローン「ネットローン」事業の拡大策を準備中

SBIイコール・クレジットの個人ローンノウハウを活用した保証スキームの構築



SBIレセプトと連携し、新たな運用手段としての 診療報酬債権ファクタリングを11月より開始予定 (レセプトファイナンス)

医療機関が社会保険診療報酬支払基金(社保)及び国民健康保険団体連合会(国保)に請求する診療報酬債権のうち、SBIレセプトは将来債権部分を、住信SBIネット銀行は確定債権部分を買取り、医療機関の入金サイトを短縮させるスキーム。住信SBIネット銀行としても国保、社保から確実に資金を回収できるため低リスク。



【SBI損害保険】

開業時の事業計画

(2008年1月16日開業)

- ・ 目標契約件数 5期目：約30万件
- ・ 目標収益 5期目：単年度黒字化、10期目：収入保険料250～300億円

「SBI損保」と業界他社との保険料比較

保険料例1 (ミニバン)

夫婦で休日の外出や日常の買い物に車を使用する場合 (車両保険あり)

SBI損保	ダイレクト系A社	ダイレクト系B社	代理店系D社
年間 41,510円	年間 43,950円	年間 51,200円	年間 69,460円

保険始期日：平成20年12月1日 車名：セレナ
 型式：NC25 料率クラス：車両4 対人5 対物4 傷害4
 居住地：神奈川県 性別：男性 走行距離：年間5,000km
 初度登録：平成19年10月 運転者範囲：本人・配偶者
 ノンフリート等級：15等級 免許証の色：ゴールド
 使用目的：日常・レジャー 年齢条件：30歳以上補償
 対人：無制限 対物：無制限 人傷：5,000万
 搭傷：1,000万 車両：一般190万(免責0-10万)
 割増引：新車割引・インターネット割引・証券不発行割引

保険料例2 (軽自動車)

本人だけマイカー通勤で毎日車を使用する場合 (車両保険なし)

SBI損保	ダイレクト系A社	ダイレクト系C社	代理店系D社
年間 14,770円	年間 16,050円	年間 18,360円	年間 26,760円

保険始期日：平成20年12月1日 車名：ワゴンR
 型式：MH21S 居住地：宮城県 性別：男性
 走行距離：年間5,000km 初度登録：平成18年10月
 運転者範囲：本人 ノンフリート等級：12等級
 免許証の色：ゴールド 使用目的：通勤・通学
 年齢条件：30歳以上補償 対人：無制限 対物：無制限
 人傷：5,000万 搭傷：500万 車両：なし
 割増引：エアバッグ割引・安全ボディ割引・ABS割引・
 インターネット割引・証券不発行割引

保険料例3 (セダン)

家族以外の方も車を運転される場合 (車両保険あり)

SBI損保	ダイレクト系A社	ダイレクト系B社	代理店系D社
年間 53,440円	年間 54,500円	年間 67,590円	年間 85,470円

保険始期日：平成20年12月1日 車名：マークX
 型式：GRX121 料率クラス：車両5 対人5 対物5 傷害4
 居住地：東京都 性別：男性 走行距離：年間2,000km
 初度登録：平成19年10月 運転者範囲：限定なし
 ノンフリート等級：17等級 免許証の色：ゴールド
 使用目的：日常・レジャー 年齢条件：26歳以上補償
 対人：無制限 対物：無制限 人傷：5,000万 搭傷：500万
 車両：一般290万(免責0-10万) 割増引：新車割引・
 盗難防止装置割引・インターネット割引・証券不発行割引

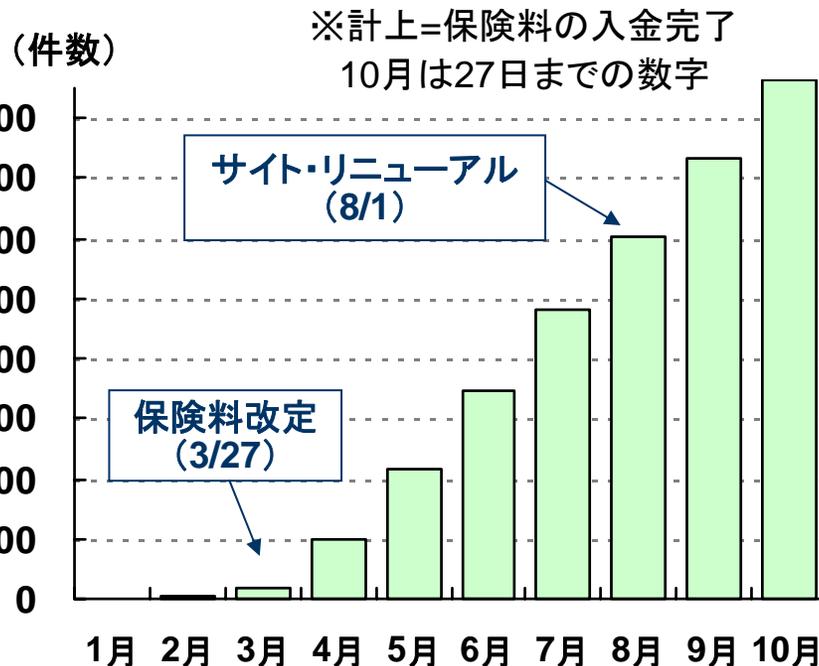
※SBI損保と比較の対象としているダイレクト系A社、B社、C社及び代理店系D社との契約条件、補償内容等は同一もしくは近似の内容であり、必ずしも一致しない場合があります。
 ※記載の保険料は2008年10月24日のものであり、保険料率の改定等により変更となる場合があります。また、契約の条件等によって、保険料は異なります。

本格稼動しつつあるSBI損保

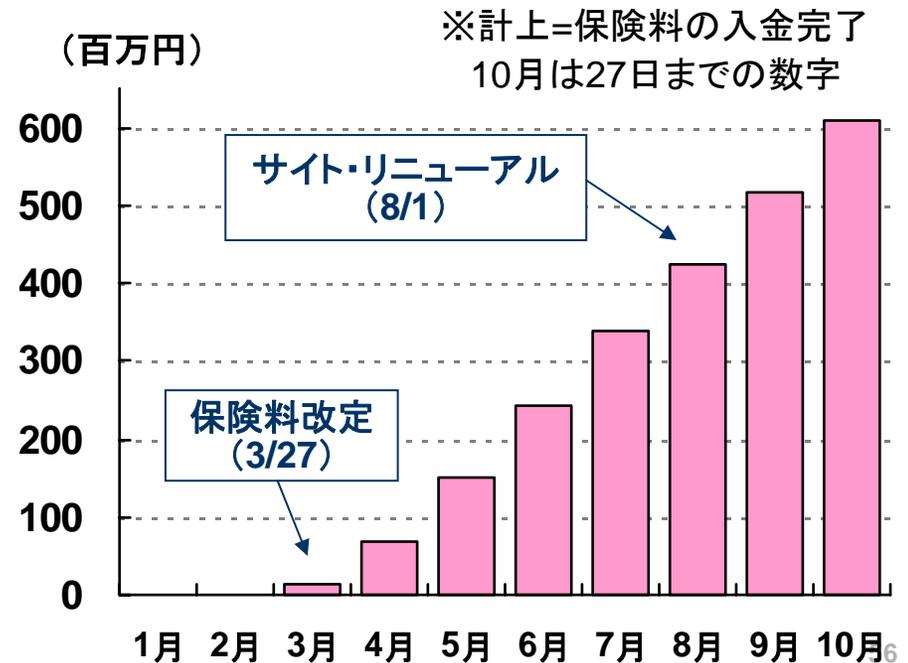
現在の状況

- ・3月27日、保険料引き下げ。大幅な値下げにより、以降成約件数は順調に増加。
- ・5月、新車見積もりサイト「オートックワン」と提携、新たな販売チャネルを開拓。
- ・8月1日、ウェブサイトリニューアル。デザインを刷新し新コンテンツを追加。
- ・10月10日より、携帯電話のGPS機能を利用した位置情報通知サービス、「SBI損保GPSナビ」を開始。

自動車保険 契約数(計上ベース)・累計



元受収入保険料(計上ベース)・累計



SBI損保「収入保険料倍増計画」～その①

年内に全ての一括見積もり・比較サイトに掲載(参加)する

保険の窓
インズウェブ



見積もり 約20,000件/月



見積もり 約15,000件/月



見積もり 約18,000件/月



見積もり 約3,500件/月



「保険スクエアbang!」
★12月スタート予定



「NTTif」
★12月スタート予定



「価格.com」
★12月スタート予定



※スタート予定の各サイトにおける見積もり件数の数字は、当社推定見込み値

SBI損保「収入保険料倍増計画」～その②

「SBIオートサポート」によるリアルへの取り組み本格化

～ SBIオートサポートは10/14より営業開始、既に202社の中古車販売業社が登録、
今後は月間100社程度の登録を見込む～

・営業開始当初: **SBI損保の自動車保険**の契約獲得を目指す



30%

- ・オークション会場運営ノウハウ(国内3ヶ所運営)
- ・会員企業: 14,000社以上
- ・年間総出品台数: 約74万台



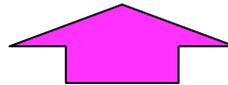
SBIオートサポート

中古車販売業者を通じた購入者
への金融サービス提供を支援

70%



- 【自動車関連金融商品】
- ・**自動車保険**(SBI損保)
 - ・**オートローン**(準備中)
(住信SBIネット銀行)



・今後: **SBIグループの総合力を発揮する**ことで、飛躍的な登録社数の増加を目指す！！

自動車保険

オートローン

SBI損保

住信SBIネット銀行

SBI Sumishin Net Bank

【SBIアクサ生命保険】

開業時の事業計画 (2008年4月7日開業)

- ・目標契約件数 初年度:約2万件、5期目:約20万件
- ・目標収益 5期目:単年度黒字化

日本初のネット専業生保「SBIアクサ生命」①

チャネルの拡大

- 2008年6月、従来のダイレクト販売に加えて募集代理店での商品販売を開始
9月末現在・取り扱い募集代理店：合計23社
- 2008年10月、募集代理店での店頭窓口における試験販売を開始
(株)アドバンスクリエイトが運営する『保険市場』の全国62店舗と、(株)アトラクティブが運営する『保険コンサルテーション:アカルミック』八尾西武店の、全63店舗。

ユーザビリティ向上への取り組み

- 10月より、カスタマーセンターの営業時間を平日は22時まで拡大、土日祝日の営業も開始(従来は平日午前9時から午後6時までのみ)
- 顧客が商品内容把握や資料請求、見積もりをやすくウェブ画面を改善
パソコン操作初心者なども含めた幅広い層への拡販を目指し、トップ画面における商品説明のスペースを従来の2倍以上に広げ、資料請求や見積もりへのリンクを明示。
- 10/28より、モバイルサイトを開設
モバイルで商品の紹介や、年齢・性別に応じた保険料試算、資料請求等が可能に

日本初のネット専業生保「SBIアクサ生命」②

保険料の引き下げについて

- 10/2より、従来より業界最低水準の保険料で提供してきた「カチッと定期」(定期保険)において、**高額割引制度を導入**。

⇒従来と比較して**最大46.6%の割引** (※保険金額2千万円以上の契約が対象)

【代表的な定期保険との比較(3,000万円10年定期の死亡保険の場合(単位:円))】

保険会社			SBIアクサ生命(※) 「カチッと定期」	ネット生保 A社	既存生保 B社	既存生保 C社	高額割引後 SBIアクサ生命 「カチッと定期」
保険料 (月払)	男性	30歳	4,590	3,484	4,650	4,920	3,450
		40歳	8,070	7,240	8,190	8,370	7,020
		50歳	16,860	17,194	17,400	17,280	16,230
	女性	30歳	3,570	2,344	3,660	3,870	2,400
		40歳	5,610	4,528	5,700	5,850	4,560
		50歳	9,630	9,034	9,840	9,870	8,970

(※)高額割引前

(2008年5月21日 「日経トレンディネット」掲載記事を参照の上、SBIホールディングスにて作成)

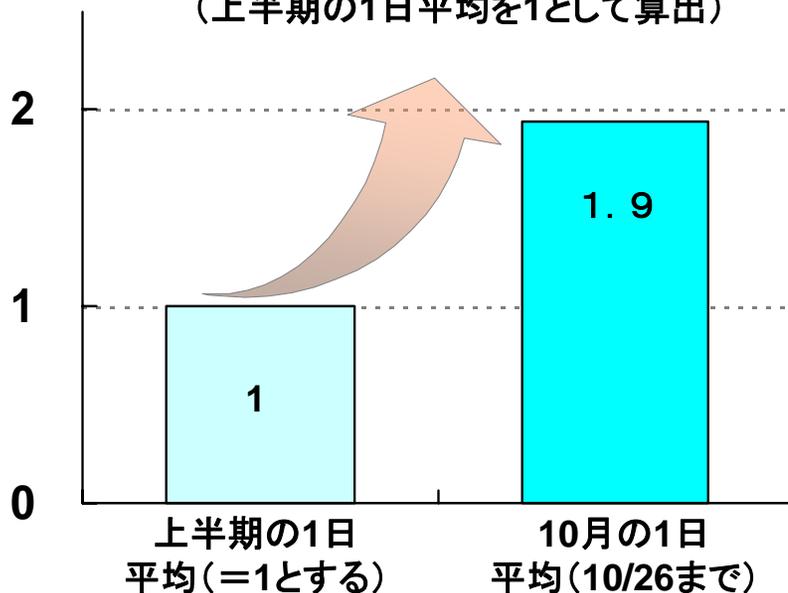
日本初のネット専業生保「SBIアクサ生命」③

契約件数について

- 2008年4月～6月の新規契約件数は、合計507件。
(内訳:定期保険:270件、医療保険:237件)
- 10月に高額割引制度(定期保険)を導入以降、契約件数は大きく増加。
=>10月は1日あたりの契約成立件数は過去平均の約2倍の増加、
保険金額は同2.3倍の増加に(10月26日現在)。

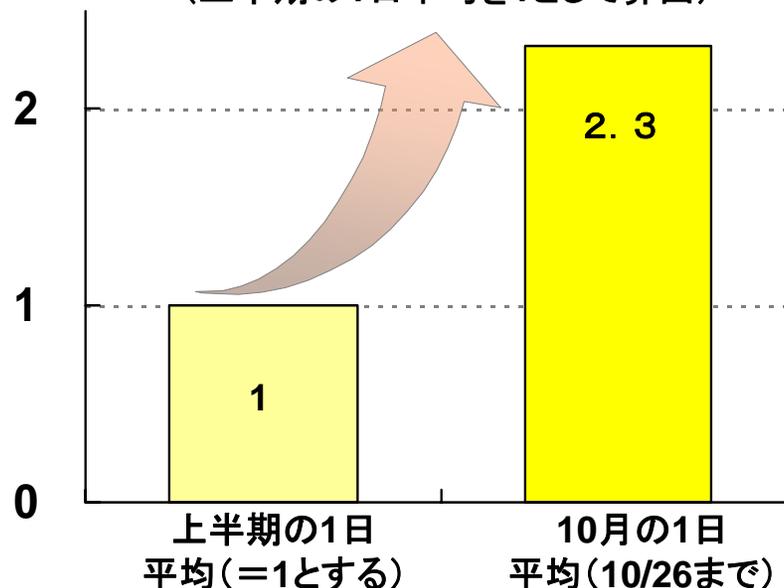
定期保険・新規契約成立件数

(上半期の1日平均を1として算出)



定期保険・保険金額

(上半期の1日平均を1として算出)



『 SBIグループCMの実施 』

テレビCM

10月1日～31日:「SBIイー・トレード証券」から「SBI証券」への商号変更告知

11月4日～:「SBIって何？」 SBIグループ各社の社名・サービスを紹介

ラジオCM

10月1日～: SBIグループ各社の社名・サービスを紹介

11月4日よりオンエア開始のテレビCM

SBIグループの多様なサービスラインナップとグループの総合力をご紹介



SBI証券
(証券)



住信SBIネット銀行
(銀行)



SBIアクサ生命
(生命保険)



SBI損保
(損害保険)



SBI住宅ローン／住信SBIネット銀行
(SBIモーゲージ)
(住宅ローン)



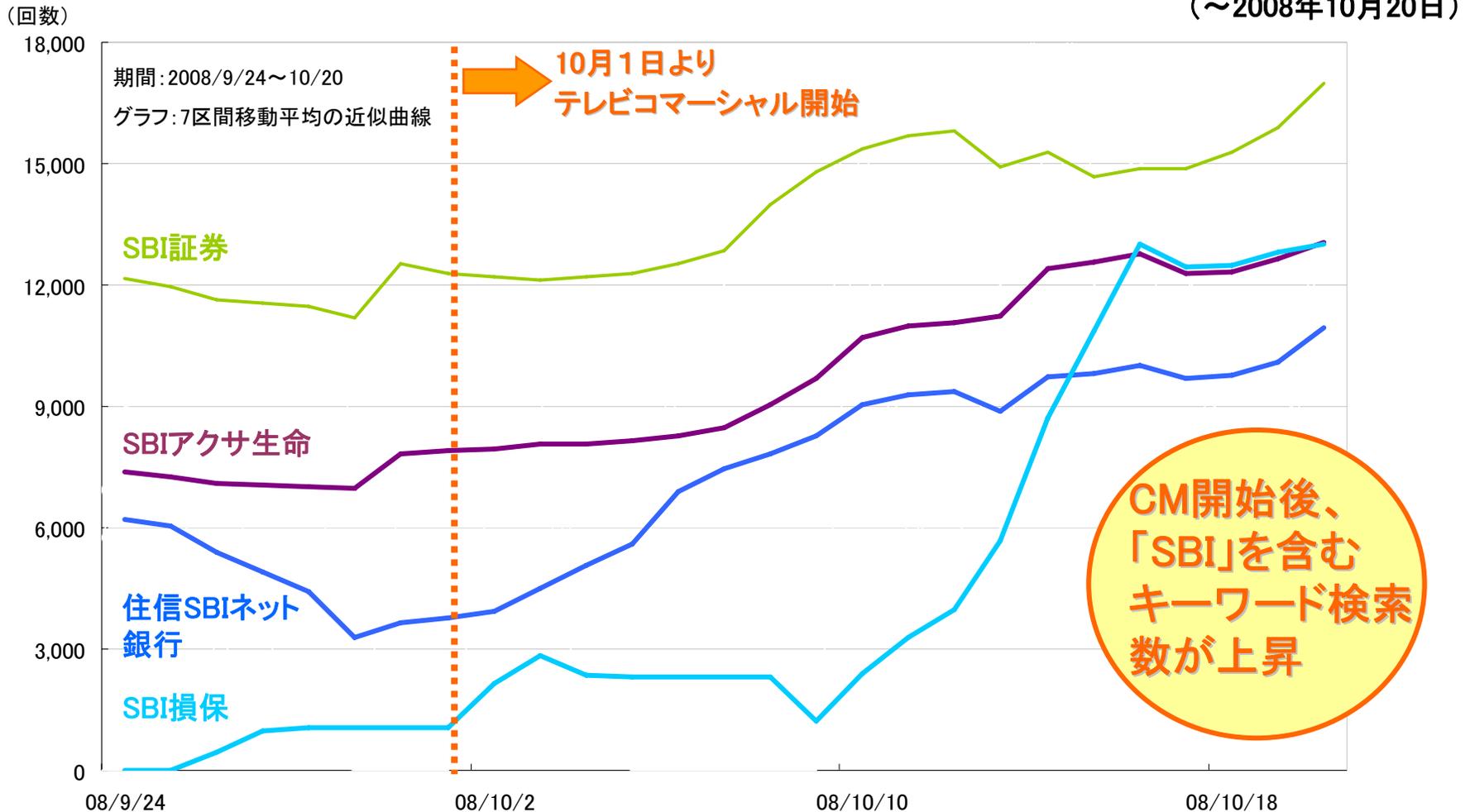
「SBIって何？」篇：30秒

金融4大事業推進のためのコマーシャル効果

～10月1日よりテレビCM、ラジオCMともに本格開始～

「SBI」というキーワード検索と連動したSBIグループ4社の広告表示回数

(～2008年10月20日)



※Yahoo!社が提供する広告システム「overture」での広告表示回数

※SBI証券は「SBI」を含む全てのアカウントによる合計値。「SBI証券」という直接的な検索は含んでいない。65

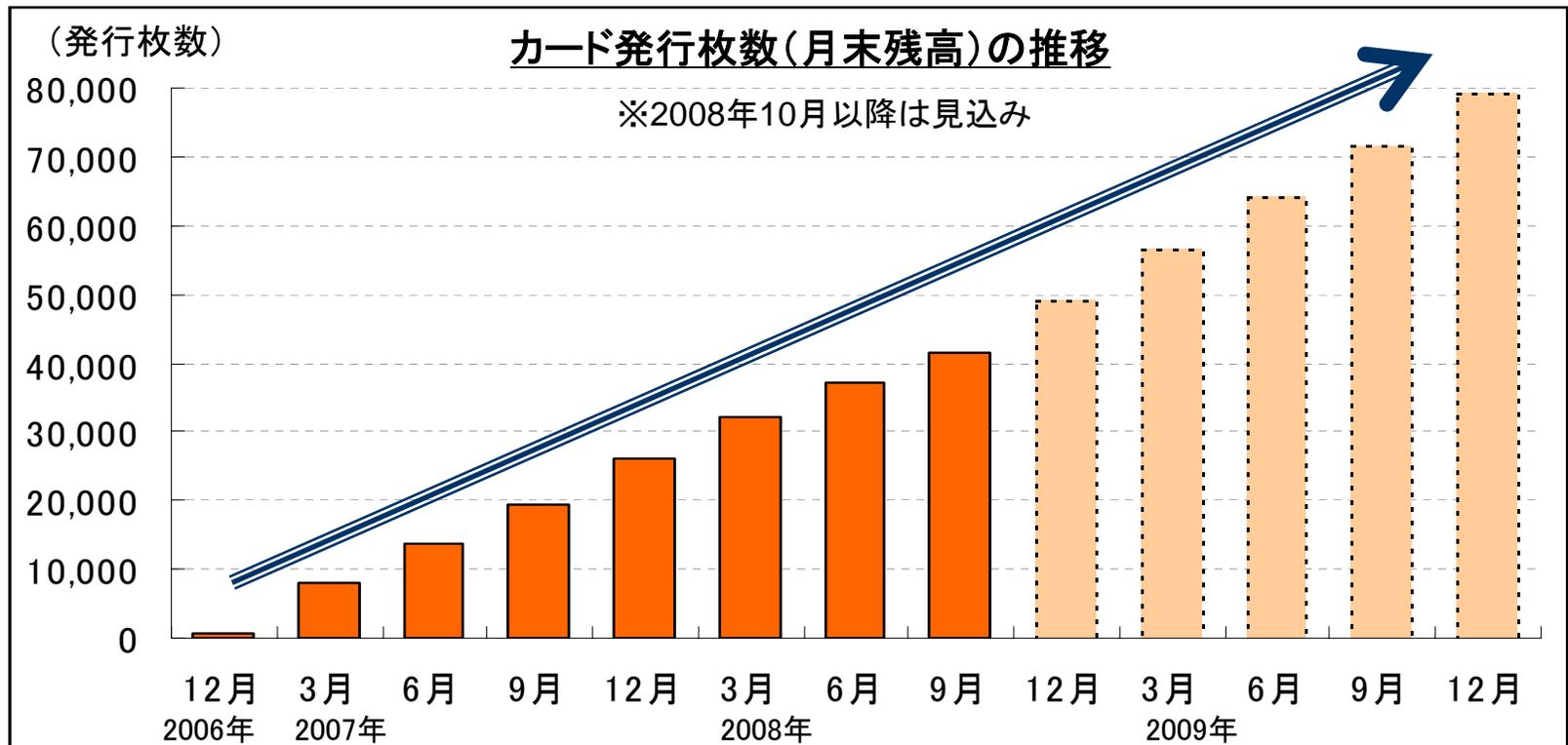
【SBIカード】

～2010年3月期下期 単月黒字化、
2011年3月期 単年度黒字化を見込む～

SBIカードは2010年3月期下期の単月黒字化を目指す

事業計画

- ・2006年11月、マスターカードブランドである各種SBIカード発行を開始
- ・2008年9月末現在、発行枚数は4万1千枚超となり、順調に顧客基盤が拡大
- ・2010年3月期下期、発行枚数は7万5千枚超を見込み、単月黒字化となる見込み
- ・2011年3月期より、単年度黒字化の見込み



(2) 利益拡大に速効性のある事業の立ち上げ

【 SBIリクイディティ・マーケット】

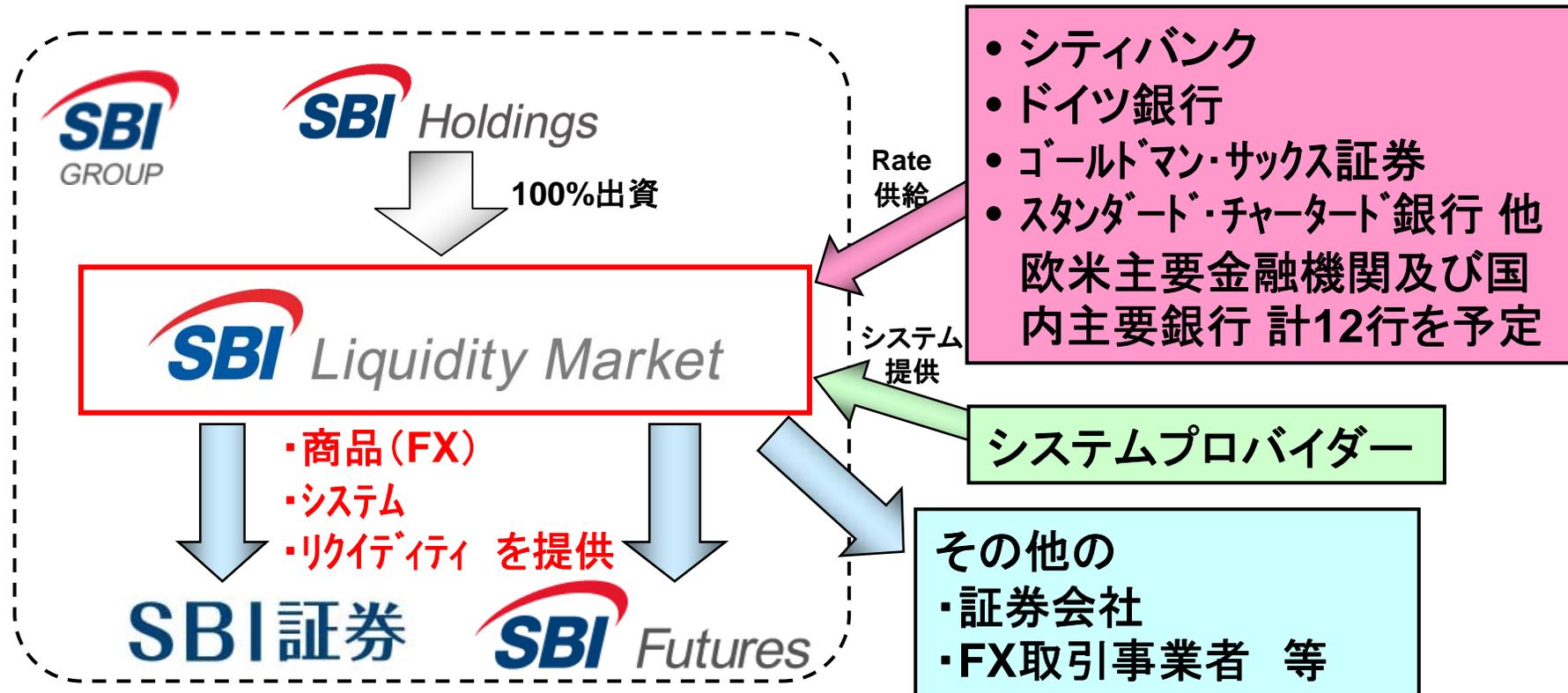
(2009年3月期)

SBI証券への目標利益寄与額 : 営業利益で約8億円

SBIリクイディティ・マーケットの目標利益額 : 営業利益で約4億円

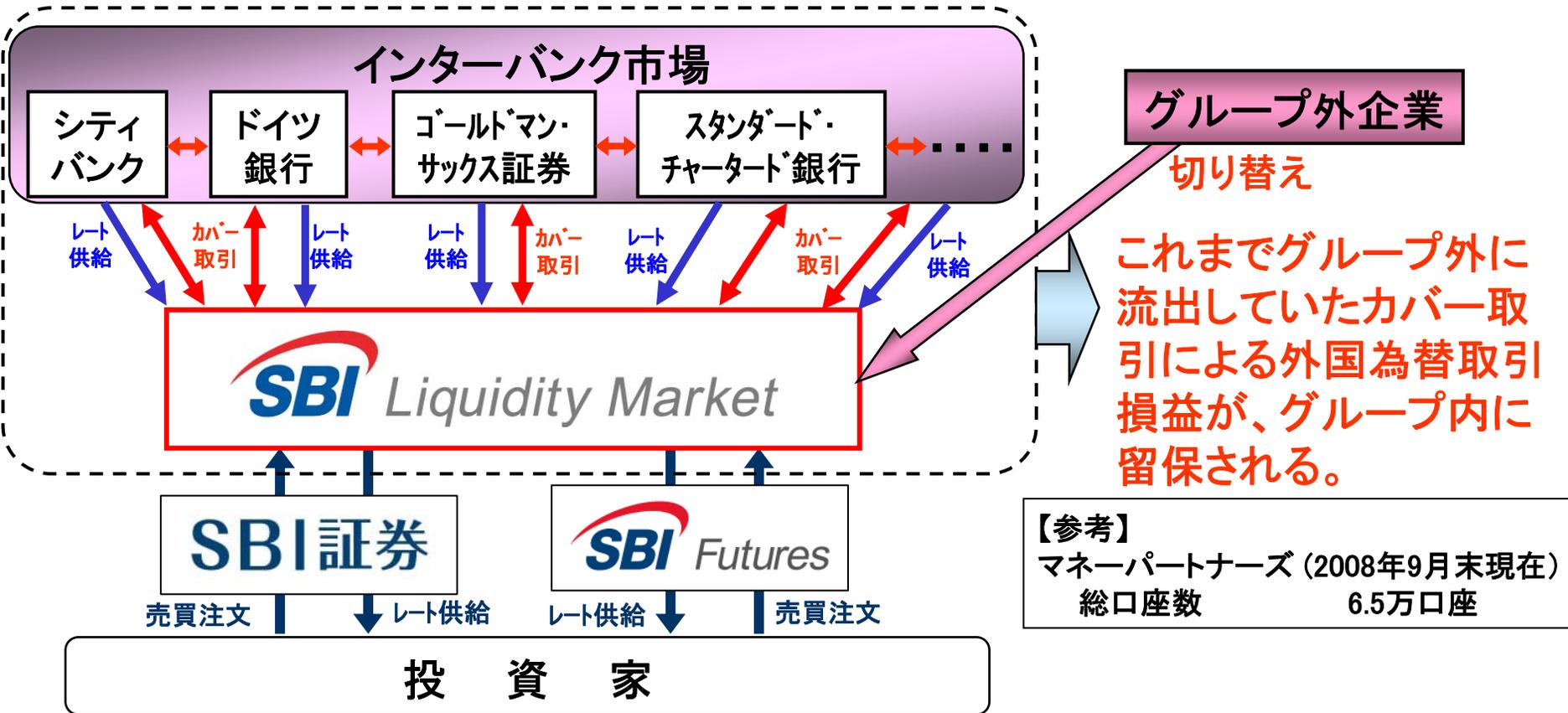
FX取引を証券事業における新たな収益の柱と見据え SBIリクイディティ・マーケットを設立

接続テスト等を経て、今後競争力のある取引環境を各社の顧客に順次提供
カウンターパーティ



将来的には、FX以外の商品(海外株価指数、金、原油等)を対象とする店頭デリバティブ取引を総合的に提供

SBIリクイディティ・マーケットの設立による 新たな収益源の獲得



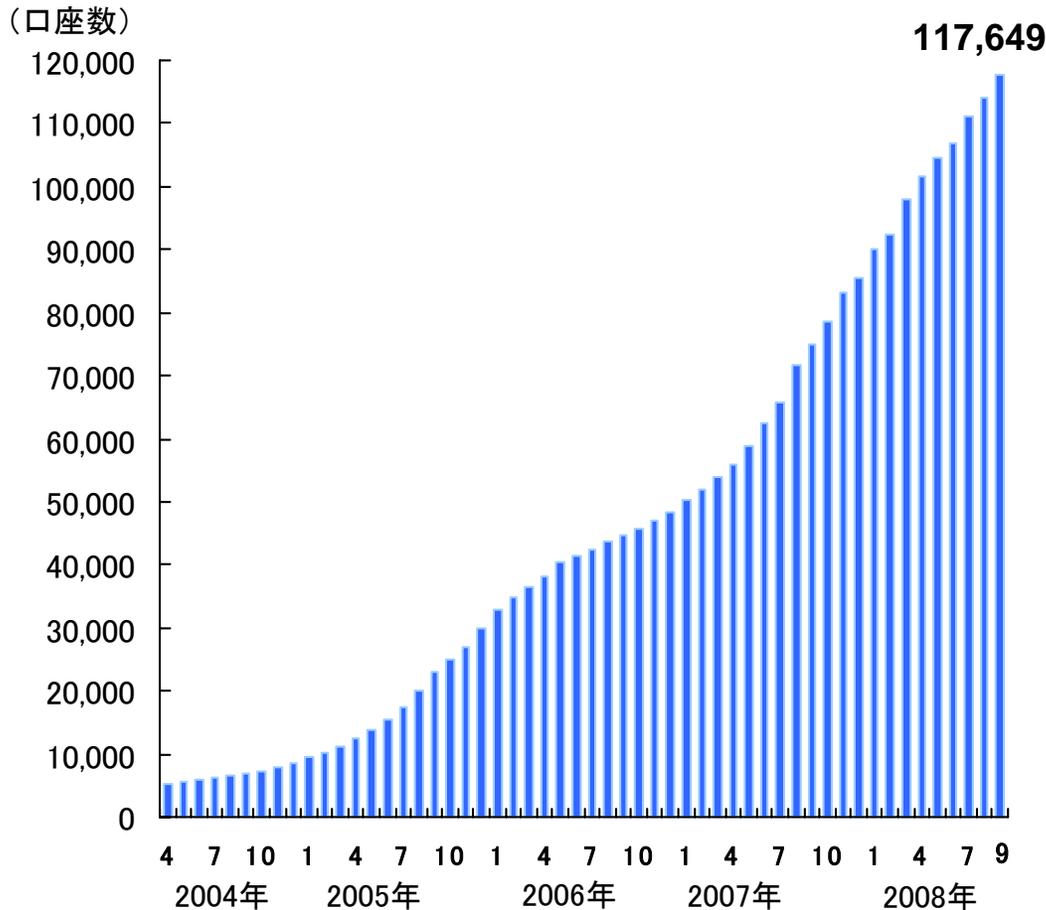
SBI証券

- FX取引口座数 : 約11.8万口座 (2008年9月末現在)
- 月間売買代金 : 2兆5,495億円 (2008年9月実績)

SBI証券への目標利益寄与額: **約8億円** (2009年3月期 営業利益)

SBI証券のFX取引は、手数料の無料化および スプレッドの大幅縮小(2008年7月～)により拡大中

外国為替保証金取引の口座推移



2008年9月 月間売買代金
2兆5,495億円 (2008年6月の**5.9倍**)

オンライン証券各社の
 外国為替保証金取引口座数
 (2008年9月末現在)

SBI	117,649
マネックス	77,651
松井	51,865
カブコム	20,631
オリックス	33,593
ジョインベスト	19,802

(3) 将来の株式市場反転・上昇に備えた準備推進

①アセットマネジメント事業における投資準備の推進

- i) 運用開始済みの既存海外ファンドは全て、
投資タイミングを計り、投資を待機中
- ii) 市場回復に備え、新ファンドの設立準備は継続

②SBI証券におけるマーケットシェアの拡大

①アセットマネジメント事業における投資準備の推進

- i) 運用開始済みの既存海外ファンドは全て、
投資タイミングを計り、投資を待機中

投資待機中の既存海外ファンド(1)

05年より運用開始

08年3月より
運用開始

08年11月より
運用開始予定

正式契約書締結
へ向けた最終段階

ファンド名称	New Horizon Fund	清華大学ファンド	北京大学ファンド	中国三社との 共同ファンド
進捗状況	出資先10社のうち6社 IPO済。 <u>08年中には1社 がIPO予定。</u>	外資との合弁ファンド 設立は北京で初。 <u>2件 投資実行済。</u>	契約締結及び政府認 可取得済。 <u>中国の有 望な未公開企業に投 資予定。</u>	08年6月ファンド設立基本合 意。 <u>4社共同設立の運用会 社を通じて中国の未公開企 業に投資予定。</u>
パートナー	TEMASEK	清華 ホールディングス	北京大青鳥環宇	<ul style="list-style-type: none"> ・招商証券 ・源裕投資 ・中信銀行
投資対象国	<p>中国</p> 			
投資対象	非流通株及び 未公開企業	国内未公開企業	企業ないし 不動産関連	製造業、消費財産業、サー ビス産業、小売産業、物流と 輸送業、エネルギーと資源 産業
出資金額 (単位:百万USD ドル)	100 (当社出資比率 50%)	30 (当社出資比率 99%)	100 (当社出資比率 50%)	Offshore: 約50 (SBIH) Onshore: 約21 (中国側)

投資待機中の既存海外ファンド(2)

正式契約書を
08年11月初旬締結予定

08年4月より
運用開始

08年4月より
運用開始

08年6月より
運用開始

ファンド名称	SBI-METROPOL Investment Fund	India Japan Fund	Vietnam Japan Fund	SBI SOI ファンド
進捗状況	正式契約書締結の最終合意済。成長性の高いロシアの公開・未公開企業に投資予定。	<u>インドに拠点を持つ未公開企業に投資予定。</u> 2件投資実行済。	ベトナム通貨建て ファンド、ベトナムの公開及び有望未公開企業に投資予定。公開企業2銘柄に投資決定済。	08年6月ファンド設立。 <u>アジアの大学発ビジネスに投資予定。</u>
パートナー	IFC METROPOL	インド 国営銀行	FPT	慶応大学
投資対象国	ロシア 	インド 	ベトナム 	アジア
投資対象	・未公開企業(70%) ・公開企業(30%)	・未公開企業(70%) ・公開企業(30%)	・国内未公開企業 ・国内公開企業	大学発 ベンチャー企業
出資金額 (単位:百万USDドル)	100 (当社出資比率50%)	100 (当社出資比率 95%)	100 (当社出資比率 90%)	5億円 (当社出資比率100%)

ii) 市場回復に備え、新ファンドの設立準備は継続

第2四半期中に合意した4つの新ファンド

正式契約書を
08年内締結予定

08年10月より
運用開始

08年11月より
運用開始

08年内
運用開始

ファンド名称	Hungary Fund	Fullerton Asia Financials Fund	台湾ファンド	SBI PRIVATE EQUITY FUND
進捗状況	08年8月ファンド設立基本合意。	08年10月に共同設定。	08年10月に設立済。	08年内設立予定。
パートナー	MFB Invest Ltd.(ハンガリー開発銀行の100%子会社)	Fullerton Fund Management Company Ltd(シンガポール政府系投資会社TEMASEKの100%子会社)	台湾のIT企業創業者	—
投資対象国	ハンガリー  と周辺の中東欧諸国	アジア主要国	台湾及び中国 	韓国 
投資対象	中東欧諸国における有望未公開企業	銀行等の上場金融機関	台湾及び中国の未公開企業	上場金融機関や韓国に多数存在する財閥の系列企業
出資金額	100 mill. EUR (当社出資比率60%)	60 mill. USD (当社出資比率 50%)	22.5 mill. USD (当社出資比率66.7%)	100-300 bill. KRW

市況の下落局面を好機として、韓国で新たに 設立する“SBI PRIVATE EQUITY FUND”

“SBI Private Equity Co., Ltd.”がGPとなり、株式市場が大きく下落している韓国にて、過小評価された現地企業に対し、企業再生及び事業構造改善による企業価値向上を目的に投資



SBI PRIVATE EQUITY FUNDの概要(予定)

会長: 李 徳勲 (Lee Deok Hoon)

(前韓国銀行・金融通貨委員会委員、元韓国ウリィ銀行頭取)

投資対象



- ▶ 企業再生及び事業構造の改善による価値向上が可能な企業(金融業中心)
- ▶ 成長性の高い優良中小企業

規模



- ▶ 今期末までに1000億韓国ウォン規模で立ち上げ
- ▶ 最大3000億韓国ウォンまで募集

投資戦略



- ▶ 財務・事業面でのターンアラウンド
- ▶ SBIグループのネットワーク・シナジーの活用

国内で設立するVCファンドでは 上場企業や新興国も投資対象に

SBI・NEOテクノロジーファンド(募集中)

投資対象イメージ図：

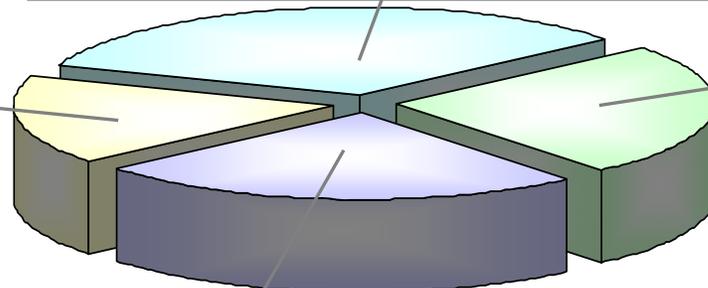
10~15%程度

国内外上場企業：
IPO後、好業績にも関わらず
本来の企業価値に比べて低
評価されている新興市場
(JASDAQ・マザーズ・ヘラクレス・
NASDAQ等)を中心とした上
場企業でSBIグループの支援
により企業価値の拡大が見
込める企業群

国内未上場ベンチャー企業：

(1)IT関連

ユビキタス時代の到来における最先端「IT技術・
サービス」等の有望な未上場ベンチャー企業群



国内未上場ベンチャー企業：

(2)環境関連

「環境・省エネ」分野等の
有望な未上場ベンチャー企業群

国外未上場ベンチャー企業：

急拡大するアジア・ロシア市場の有望な未上場ベンチャー企業群

SBI・NEOテクノロジーファンド

SBIグループが有するIT・
環境分野におけるノウハウ

ベンチャー投資における
圧倒的実績と強み

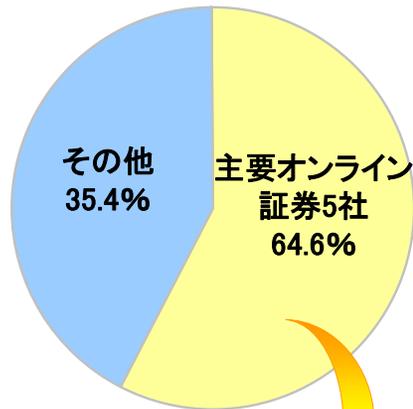
アジアの現地パートナーを
通じた幅広いネットワーク

②SBI証券におけるマーケットシェアの拡大

主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

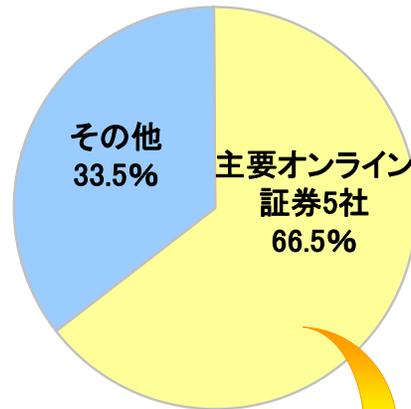
個人株式委託売買代金シェアの推移

2007年3月期 中間期
(2006年4月～2006年9月)



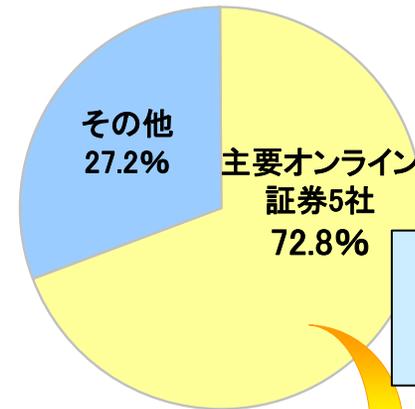
SBI証券	28.8%
楽天証券	13.7
松井証券	9.5
マネックス	6.6
カブドットコム	6.0

2008年3月期 中間期
(2007年4月～2007年9月)



SBI証券	34.1%
楽天証券	13.0
松井証券	7.7
マネックス	6.0
カブドットコム	5.7

2009年3月期 中間期
(2008年4月～2008年9月)



SBI証券	38.0%
楽天証券	14.4
松井証券	7.7
マネックス	6.8
カブドットコム	6.1

2008年9月単月
過去最高の
45.4%を達成

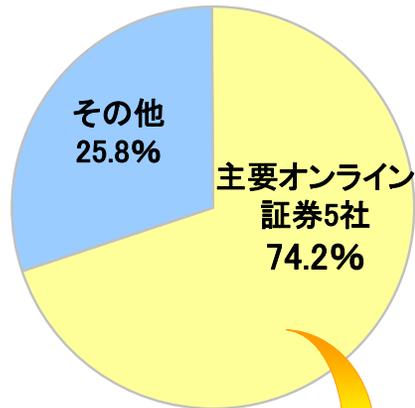
出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
※ 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

SBI証券はインターネット取引のみで算出

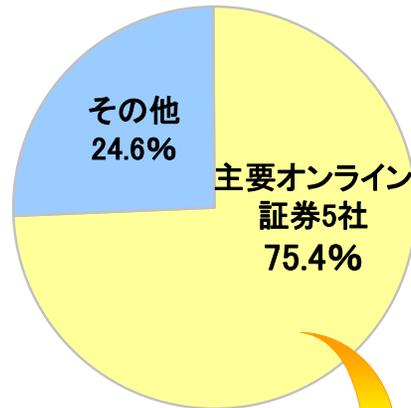
主要オンライン証券の個人信用取引委託売買代金シェア

個人信用取引委託売買代金シェアの推移

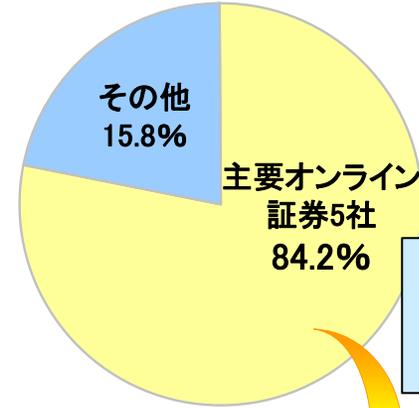
2007年3月期 中間期
(2006年4月～2006年9月)



2008年3月期 中間期
(2007年4月～2007年9月)



2009年3月期 中間期
(2008年4月～2008年9月)



2008年9月単月
過去最高の
50.8%を達成

SBI証券	33.9%
楽天証券	14.7
松井証券	12.1
カブドットコム	7.3
マネックス	6.2

SBI証券	38.8%
楽天証券	15.2
松井証券	9.1
カブドットコム	6.6
マネックス	5.8

SBI証券	44.1%
楽天証券	17.4
松井証券	8.6
マネックス	7.2
カブドットコム	6.9

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
※ 個人信用取引委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

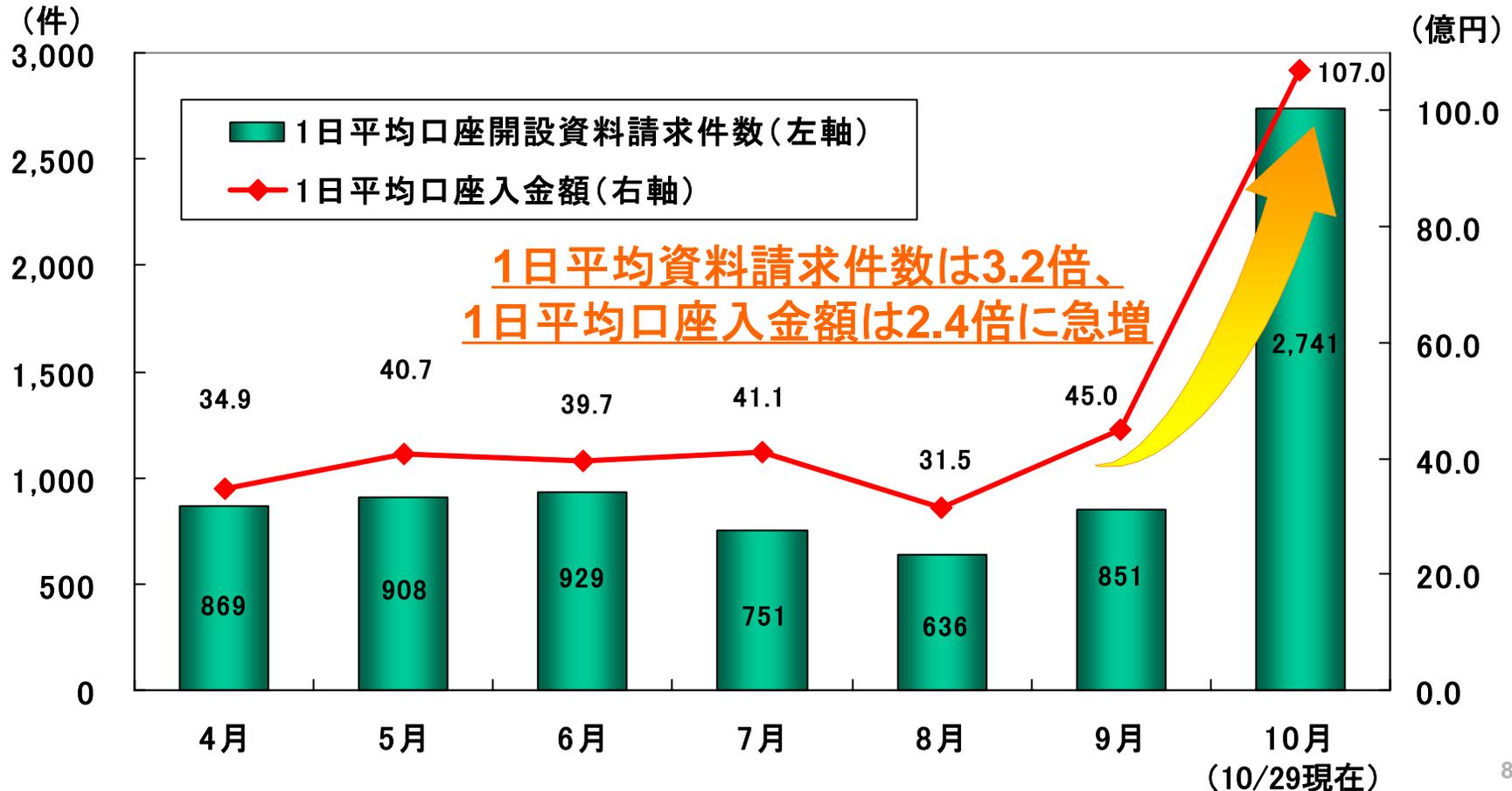
SBI証券はインターネット取引のみで算出

SBI証券における口座開設の申込が急増

- テレビCM開始(10/1)によるSBIブランドの訴求
- 低迷する株式相場を投資の好機と捉える

口座開設の申込及び
口座への入金が増

SBI証券における1日平均の口座開設資料請求件数及び口座入金額



(4) 株式市場の影響を比較的受けにくい バイオ関連事業の早期育成

SBIバイオテックが創薬事業への進出を本格化

米国、中国、韓国の有力な製薬会社やバイオベンチャー企業との契約を締結



•9月、英製薬大手アストラゼネカの米国バイオ子会社・メドイミュン(MedImmune)と抗ILT-7抗体に関するライセンス契約を締結、開発販売権を供与。今後メドイミュンは米国での臨床試験に取り組み、関節リウマチなどの自己免疫疾患の治療薬として開発へ。



•10月、米国の**ベイラー研究所(Baylor Research Institute)**と樹状細胞療法に関するライセンス契約締結をリリース、日本を含むアジア地域での権利を取得。がん細胞を攻撃する樹状細胞療法について共同研究に取り組む。



•10月、中国バイオテック企業の**長春華普生物技術有限公司(Changchun Huapu Biotechnology)**と3種類の核酸医薬の新薬候補導入の契約締結をリリース。がんや自己免疫疾患等の治療薬を目指して開発を進め、適応症に応じて日・米・中で臨床試験予定。

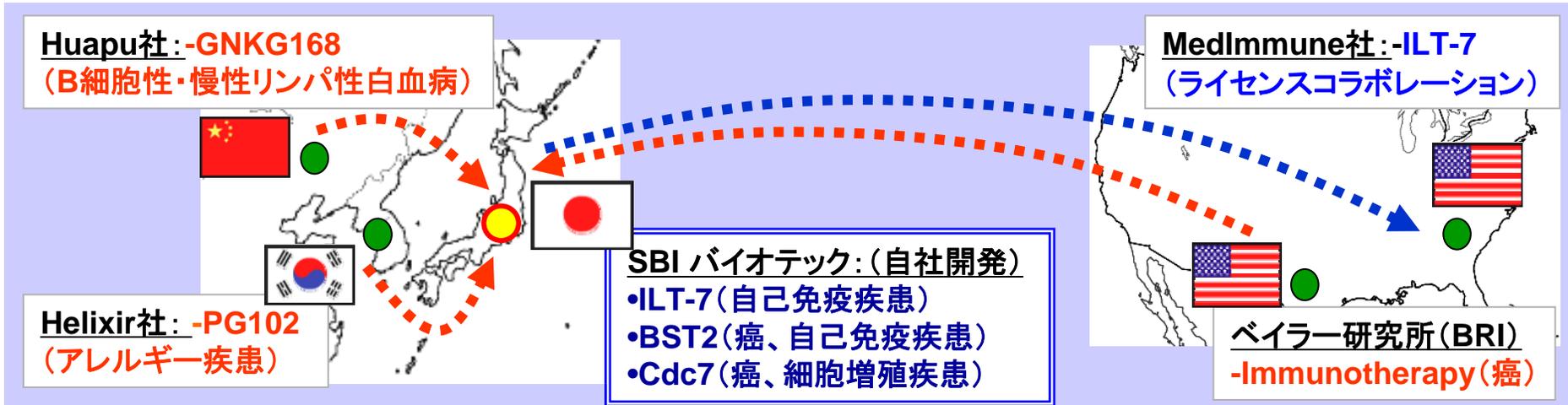


•10月、韓国の**バイオベンチャー企業のヘリクシール社(Helixir)**とサルナシ抽出エキスPG102を機能性食品として開発・販売するライセンス契約締結をリリース。アトピー性皮膚炎や花粉症、鼻炎、喘息、食品アレルギー等アレルギー性疾患への適応が期待できる。

SBIバイオテックのプロジェクト開発スケジュール

日・米・中・韓の世界的研究拠点や研究者を有するSBIバイオテックは、「複数」のパイプラインと世界的なネットワークを強みにグローバルな事業展開へ

【創薬パイプライン】



【開発スケジュール】

前臨床試験・薬事対応
 臨床第 I 相試験
 臨床第 II 相試験
 臨床第 III 相試験

	2008	2009	2010	2011	2012
ILT-7	ライセンス・コラボレーション	前臨床試験・薬事対応	前臨床試験・薬事対応	臨床第 I 相試験	臨床第 II 相試験
BST2		前臨床試験・薬事対応	前臨床試験・薬事対応	臨床第 I 相試験	臨床第 II 相試験
Cdc/ASK		前臨床試験・薬事対応	臨床第 I 相試験	臨床第 II 相試験	臨床第 II 相試験
GNKG168	前臨床試験・薬事対応	臨床第 I 相試験	臨床第 II 相試験	臨床第 III 相試験	臨床第 III 相試験
BRI	ライセンスイン				
PG102	ライセンスイン				

今後収益が期待されるバイオ関連出資先企業

クオーク・ファーマシューティカルズ社 (SBIグループ出資比率:24.87%)

- RNA干渉(RNAi)をベースとした新薬の開発
- 2006年9月に米国ファイザー社と加齢黄斑変性症を対象疾患とする合成分子(PF-4523655)に関するライセンス契約を締結した。ファイザーから支払われるライセンス料は600百万ドルを超える規模となる。
- 2008年7月に糖尿病性黄斑浮腫に対象拡大し、ライセンス料を受領した。開発ステージはフェーズII試験へ前進。
- 2008年10月に、ジョン・ホプキンス大学医学部ビスウエル教授との共同研究である、siRNAが非小細胞肺癌関連遺伝子の成長を抑制に有効であることを示す論文をCancer Research誌に同社が発表した。新しい抗がん剤として利用できる可能性。
- 株式市場への新規上場のみならず、国内外大手製薬会社へのM&AによるExitも検討中。

アキュセラ社 (SBIグループ出資比率:26.34%)

- 眼科疾患の新薬開発
- 2008年9月に大塚製薬とドライ型加齢黄斑変性症を対象疾患とする化合物の導出とドライアイを対象疾患とする点眼薬に関する共同開発契約を締結した。大塚製薬から支払われるライセンス料は最大で258百万ドルとなる。
- 米国NASDAQを含めた新興市場への新規上場を検討中。

(5) 経営環境に応じた組織再編成(剪定)

「一利を興すは一害を除くに若かず、
一事を生ずるは一事を減すに若かず」

— 耶律楚材

『十八史略』

新たな成長に向けた組織の再編成(剪定)

～年頭所感より～

『～当面の経営環境を洞察し、組織の剪定を断行します。グループ各事業、各プロジェクトの優先順位を明確にし、経営資源の傾斜的配分を行います。やはり、時に剪定したり、間引いたり、省いたりして、新しい生命力が創造される環境を整備することが必要なのです。～』

(2008年1月4日 SBIグループ年賀式において)

～SBIマネーワールド ブログより～

『～今のSBIグループは全ての会社が相互にシナジーを生むように作り上げてきましたが、そのシナジーを更に効果的に発揮するためのグループ再編成ということが今年の大きなポイントになるのです。～』

(2008年2月25日「SBIマネーワールド」より抜粋)

新たな成長にむけたSBIグループの組織再編成(1)

経営資源の再配分 ⇒ 新たな成長に向けた環境の整備

完全子会社化

- ・三大新事業と様々なシナジーが期待できるSBIイー・トレード証券 (現SBI証券)の完全子会社化(8月1日効力発生)

出資

- ・ストラテジック・コンサルティング・グループへの44.4%出資による
インベストメント・バンキング業務強化 ↓
創業以来4期の平均営業利益: 3.5億円(業務委託費差引前)

株式上場

- ・韓国における投資先2社(現代スイス I (10%出資)、Gatebank (9.04%出資))が上場計画中

新たな成長にむけたSBIグループの組織再編成(2)

経営資源の再配分(続き)

設立

- ・ 為替証拠金取引のプラットフォーム会社
「SBIリクイディティ・マーケット」を設立
- ・ バイオ関連分野における SBIアラプロモの設立

売却

- ・ E*TRADE Korea売却により得た資金は新たな成長分野へ

より成長できる環境への移管

- ・ SBIイコールクレジットの一部は、住信SBIネット銀行の個人ローン事業と統合の方向。設立した新会社ネクス(株)で貸金業登録等の準備中

新たな成長にむけたSBIグループの組織再編成(3)

非金融生態系の拡大に向けたコア企業の配置と再編

- ・不動産関連生態系におけるリビングコーポレーションの子会社化とSBIプランナーズとの統合

⇒現在の不動産市況を鑑み、リビングコーポレーションにはSBIグループより55億円の借入極度額を設定。

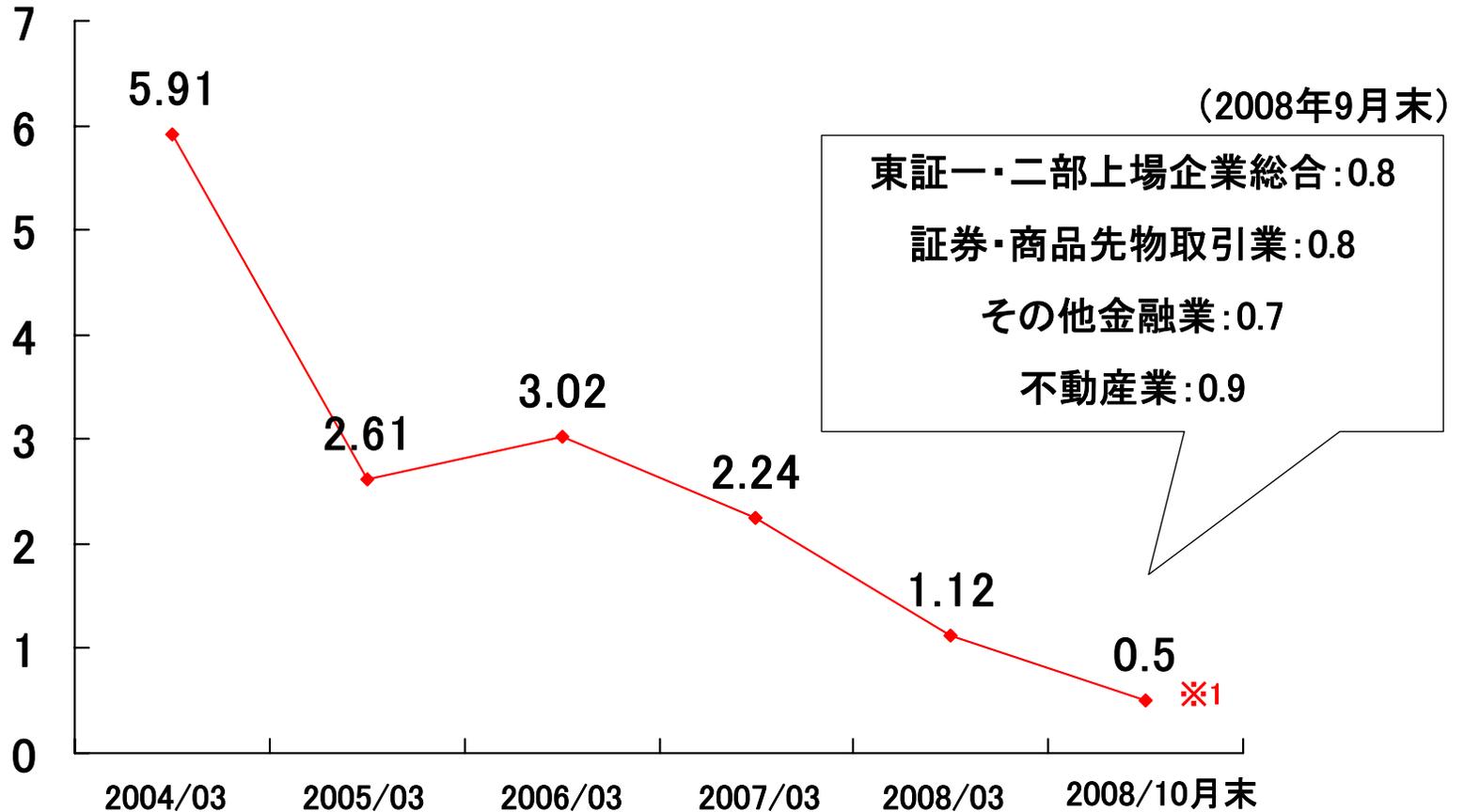
(実際の使用は2008年9月末で8億円)

- ・システム関連生態系におけるC4T(現SBIネットシステムズ)の子会社化及びSBI証券傘下のシステム会社2社(トレードウィン、SBIテック)の同社への統合

⇒SBIネットシステムズは、当第2四半期累計で黒字化
子会社化以前より付いていた「継続企業の前提に関する事項の注記」は、外れることとなる

【 株主構成 】

当社PBRの推移



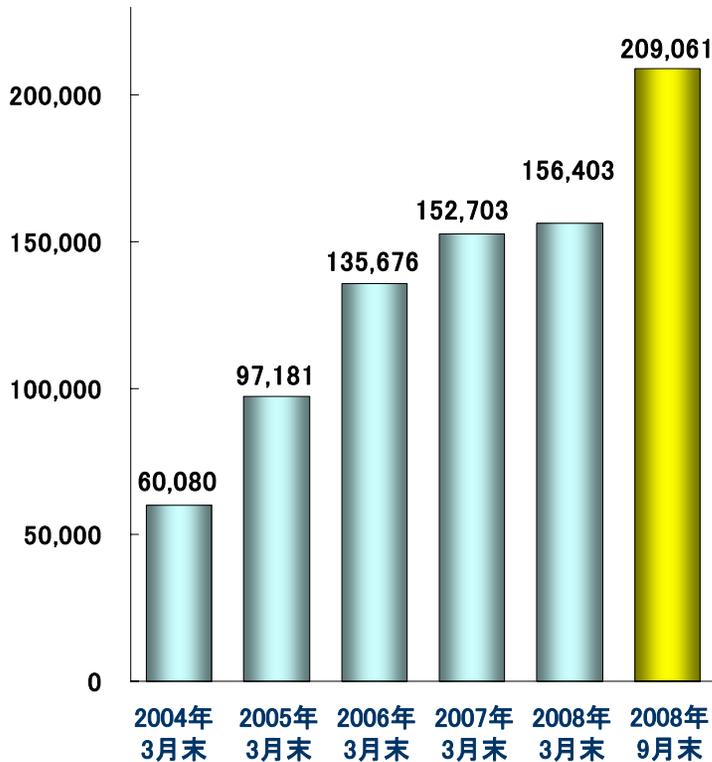
※1 直近のPBRの計算には、2009年3月期第2四半期末の1株当たり純資産の数値を使用しております。

SBIホールディングス 株主構成の推移

2008年3月末に比べ外国人投資家の保有比率が急上昇

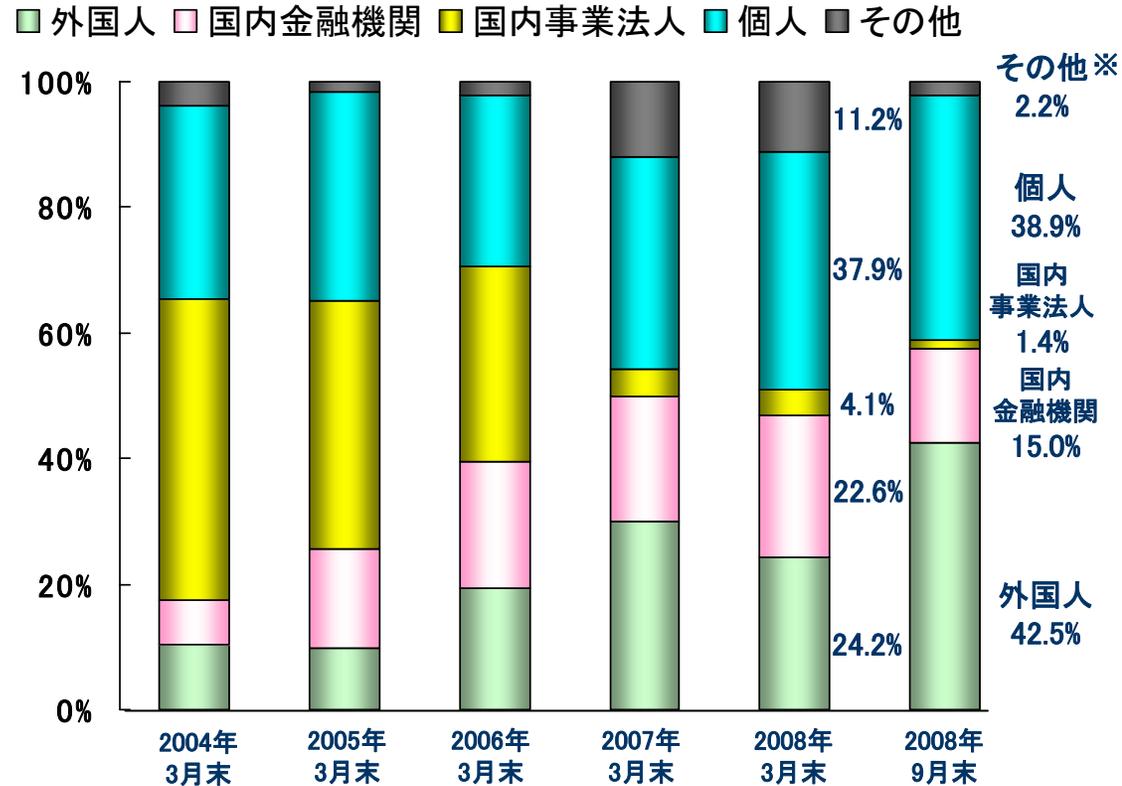
株主数の推移

(単位:名)



(端株主を含む)

株主構成比率の推移



※その他には「自己株式」0.2%を含む

直近に提出された外国人投資家による SBIホールディングス株式の大量保有報告書の状況

提出者 (共同保有者名)		報告義務 発生日	保有株式数 (総数)	発行済株式総数に 対する保有株式数の 割合(%)
米国 キャピタル グループ	キャピタル・ガーディアン・トラスト・カンパニー キャピタル・インターナショナル・リミテッド キャピタル・インターナショナル・インク キャピタル・インターナショナル・エス・エイ キャピタル・インターナショナル株式会社	2008年 8月29日	1,201,929	7.17
英国 オービス グループ	オービス・インベストメント・マネジメント・ (ビー・ヴィー・アイ)・リミテッド オービス・インベストメント・マネジメント・ リミテッド	2008年 10月15日	1,503,188	8.97
		2008年 10月27日	↓ 1,685,181	↓ 10.05

(注) 保有株式数及び発行済み株式総数に対する保有株式数の割合は報告義務発生日時点のものです。

<http://www.sbigroup.co.jp>